

外国人住民支援ニーズ把握調査 報告書

令和5年（2023年）2月

目 次

I 調査概要	1
1 調査目的	1
2 調査設計	1
(1) 調査対象・標本数.....	1
(2) 調査方法.....	1
(3) 調査期間.....	1
3 回収状況	1
(1) 回収状況.....	1
(2) 回収数（市町村別）.....	2
4 報告書の見方	4
II 調査結果	5
1 外国人住民向け調査	5
(1) 年齢.....	5
(2) 国籍.....	5
(3) 居住年数.....	6
(4) 在留資格.....	7
(5) 職業.....	8
(6) 母国語.....	9
(7) 日本語能力.....	10
(8) 日本人と話す時に困ること.....	10
(9) 日本語を読む時に難しいこと.....	11
(10) 日本語の勉強方法.....	11
(11) オンライン日本語教室への参加意向.....	12
(12) オンライン通訳サービスの利用意向.....	12
(13) 困ったときの相談先.....	13
(14) 災害や感染症についての情報の入手先.....	14
(15) 外国人住民が暮らしやすい地域にするために必要なこと.....	14
(16) 役所に求めること.....	15
(17) 学齢期の子どもの有無.....	16
(18) 子どもの学校へ行ったことがあるか.....	17
(19) 子どもの教育で困ったこと.....	17
(20) 子どもが学校に通っていない理由.....	18
(21) 地域での日本人との交流.....	18
(22) 同じ国・宗教の人たちのコミュニティの有無.....	19

(23) 同じ国・宗教の人たちのコミュニティの利用意向	19
(24) 今後やってみたいと思う活動	20
(25) S I Aが提供するサービスの利用経験	20
2 NGO等向け調査	21
(1) 活動歴	21
(2) 活動内容	21
(3) 支援している方の国籍	22
(4) 支援している方の年齢	22
(5) 支援している方の居住年数	23
(6) 支援している方の在留資格	24
(7) 支援している方の仕事	25
(8) 支援している方の日本語を学ぶ目的	25
(9) 支援している方の生活で困っていること・不安に思うこと	26
(10) 支援している方（家族を含む）の不就学者の有無	27
(11) 外国人と日本人との交流促進のための取り組みの有無	27
(12) 外国人住民と地域をつなぐキーパーソンの把握	28
(13) 外国人コミュニティの把握	28
(14) 外国人コミュニティが地域にあったら良いと思うか	29
3 通訳翻訳ボランティア向け調査	30
(1) 活動歴	30
(2) 外国人住民のための通訳又は翻訳の経験の有無	30
(3) 通訳又は翻訳等の活動回数	31
(4) 支援している方の国籍	31
(5) 支援している方の年齢	32
(6) 支援している方の居住年数	32
(7) 支援している方の在留資格	33
(8) 支援している方の仕事	34
(9) 支援している方の日本語を学ぶ目的	34
(10) 支援している方の生活で困っていること・不安に思うこと	35
(11) 支援している方（家族を含む）の不就学者の有無	36
(12) 外国人と日本人との交流促進のための取り組みの有無	36
(13) 外国人住民と地域をつなぐキーパーソンの把握	37
(14) 外国人コミュニティの把握	37
(15) 外国人コミュニティが地域にあったら良いと思うか	38
4 企業等向け調査	39
(1) 業種	39
(2) 外国人の雇用の有無・人数	40

(3) 雇用している方の国籍	41
(4) 雇用している方の年齢	41
(5) 雇用している方の居住年数	42
(6) 雇用している方の在留資格	43
(7) 今後、外国人の雇用を増やしたいか（既に雇用している）	44
(8) 外国人の雇用に関して、課題や困っていること	44
(9) 外国人従業員を支援するサービスの利用意向	45
(10) ビザの切り替え	45
(11) 外国人と日本人との交流促進のための取り組みの有無	46
(12) 今後、外国人の雇用をしたいか（現在、雇用していない）	46
(13) 求める人材	47
(14) 外国人留学生に求める人材の学歴	47
(15) 今後、外国人を雇用しないと考える理由	48
(16) 外国人の雇用に関して、仲介する団体に期待すること	49
(17) GGSが提供するメニューの利用	49
5 市町村（国際施策担当者）向け調査	50
(1) 在住外国人数	50
(2) 外国人住民の地域生活における課題・問題	51
(3) 外国人住民に対する窓口対応	52
(4) オンライン通訳サービスの利用意向	52
(5) 外国人と日本人との交流促進のための取り組みの有無	53
(6) 外国人住民と市町村をつなぐキーパーソンの把握	53
(7) 外国人コミュニティの把握	54
(8) 外国人コミュニティが地域にあったら良いと思うか	54
6 市町村（教育委員会担当者）向け調査	55
(1) 在住外国人数	55
(2) 外国語を母語とする児童・生徒の在籍の有無・人数	55
(3) 日本語に不自由している児童・生徒の有無	57
(4) 日本語指導員制度の有無	58
(5) 多言語でのサポートが可能な職員を配置の有無	58
(6) 通訳（オンライン通訳含む）利用の有無	59
(7) 「オンライン日本語教室」への興味	59
(8) 学校等における外国人児童・生徒に関わる課題	60
(9) オンラインガイダンス等の利用意向	61
(10) 母国で既卒の児童・生徒の受け入れ	62
(11) 受け入れ可能な場合の年齢制限の有無	62
(12) 外国人児童、生徒の不就学者の把握	63

(13) 把握している不就学者への支援の有無	63
(14) 不就学者を把握していない場合、今後何か支援等を行う予定の有無	64
(15) S I Aが提供するサービスの利用経験	65

I 調査概要

1 調査目的

日本語力が十分でない在住外国人のための総合的支援に関する事業を実施するにあたり、外国人住民等の支援ニーズについて、実態を把握することを目的に実施する。

2 調査設計

(1) 調査対象・標本数

調査対象	標本数
外国人住民	3,000 件
NGO等	246 件
通訳翻訳ボランティア	1,012 件
企業等	1,059 件
市町村 国際施策担当者	63 件
市町村 教育委員会担当者	63 件

(2) 調査方法

URL等を記載した依頼文を郵送配付、WEB回答による回収

(3) 調査期間

令和4年11月14日（月）から令和4年11月30日（水）

3 回答状況

(1) 回答状況

調査対象	標本数	回答数	回答率
外国人住民	3,000 件	376 件	12.5%
NGO等	246 件	110 件	44.7%
通訳翻訳ボランティア	1,012 件	292 件	28.9%
企業等	1,059 件	211 件	19.9%
市町村 国際施策担当者	63 件	57 件	90.5%
市町村 教育委員会担当者	63 件	56 件	88.9%

(2) 回答数（市町村別）

市町村名	外国人住民	NGO等	通訳翻訳 ボランティア	企業等	国際施策 担当者	教育委員会 担当者
さいたま市	19	24	79	47	1	1
川越市	43	4	8	8	1	1
熊谷市	1	1	3	4	1	1
川口市	159	8	12	21	1	1
行田市	-	1	-	3	1	1
秩父市	2	-	-	6	1	1
所沢市	-	5	8	5	1	1
飯能市	-	1	1	3	1	1
加須市	9	1	1	4	1	1
本庄市	8	1	-	2	1	-
東松山市	-	2	1	2	1	1
春日部市	1	3	2	4	1	1
狭山市	-	1	3	4	1	1
羽生市	-	-	-	1	1	1
鴻巣市	-	3	2	3	1	1
深谷市	-	2	1	2	1	-
上尾市	-	3	3	7	1	1
草加市	-	5	2	3	1	1
越谷市	41	7	3	7	1	1
蕨市	-	3	-	2	1	1
戸田市	15	2	2	4	1	1
入間市	-	1	3	5	1	1
朝霞市	19	2	4	-	1	1
志木市	-	1	1	2	1	1
和光市	-	2	3	2	1	1
新座市	-	1	2	4	1	1
桶川市	-	-	-	4	1	-
久喜市	-	2	-	6	1	1
北本市	-	1	1	-	1	1
八潮市	14	-	-	6	1	1
富士見市	-	3	-	1	1	1
三郷市	-	4	1	1	1	1
蓮田市	-	1	1	1	1	1
坂戸市	-	3	6	3	1	-

市町村名	外国人住民	NGO等	通訳翻訳 ボランティア	企業等	所管課	教育委員会
幸手市	-	1	1	2	1	1
鶴ヶ島市	-	1	1	1	1	1
日高市	-	-	2	2	1	1
吉川市	9	-	-	1	-	1
ふじみ野市	-	3	4	-	1	1
白岡市	-	1	-	3	1	1
伊奈町	3	-	1	2	1	1
三芳町	-	1	-	5	1	1
毛呂山町	4	-	-	1	1	1
越生町	1	-	-	-	-	1
滑川町	-	-	1	2	1	1
嵐山町	-	-	-	1	1	1
小川町	-	-	-	1	1	1
川島町	-	-	-	1	-	1
吉見町	-	-	-	-	1	1
鳩山町	-	-	-	-	1	-
ときがわ町	-	-	-	-	1	1
横瀬町	-	-	1	-	1	1
皆野町	2	-	-	-	-	-
長瀨町	-	-	-	-	1	1
小鹿野町	-	-	-	-	1	1
東秩父村	-	-	-	-	1	1
美里町	2	-	-	2	1	1
神川町	1	-	-	-	-	-
上里町	4	-	-	1	1	1
寄居町	-	-	-	4	-	1
宮代町	-	-	-	1	1	1
杉戸町	-	-	-	1	1	1
松伏町	-	1	1	-	1	1
※1その他	19	4	31	3	-	-
※2非該当	-	-	96	-	-	-
合 計	376	110	292	211	57	56

※1その他 「埼玉県」「city」など市町村を特定できない。市町村以外の回答を含む。

※2非該当 通訳翻訳ボランティアは回答によりスキップされるため。

4 報告書の見方

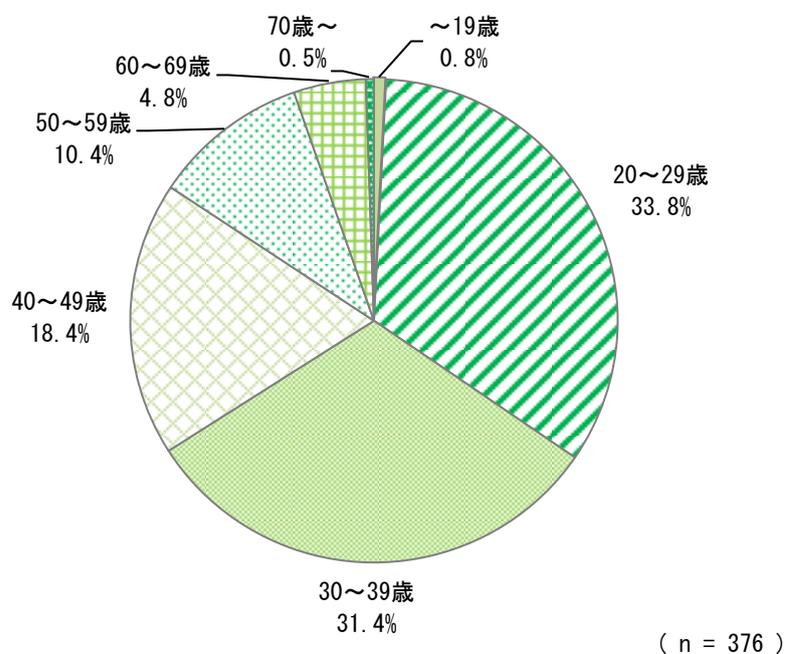
- ①調査結果の比率は、その設問の回答者数を基数として、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点第1位まで表示している。したがって、合計が100%にならない場合がある。
- ②複数回答形式の場合、回答比率の合計は通常100%を超える。
- ③図表中の「n」とは、その設問への回答者数を表す。
- ④選択肢の語句が長い場合、本文や表・グラフ中では省略した表現を用いている。

Ⅱ 調査結果

1 外国人住民向け調査

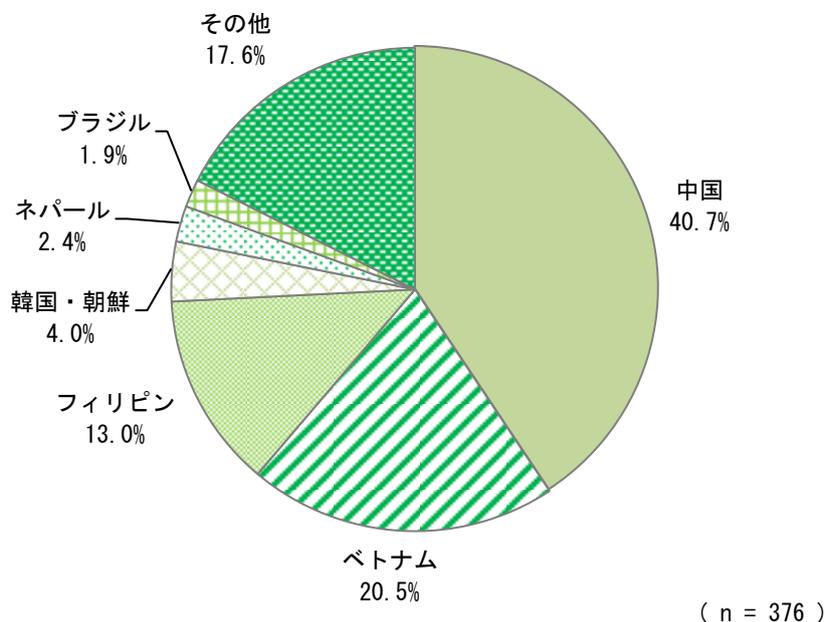
(1) 年齢

「20～29歳」が33.8%、「30～39歳」が31.4%、「40～49歳」が18.4%となっている。



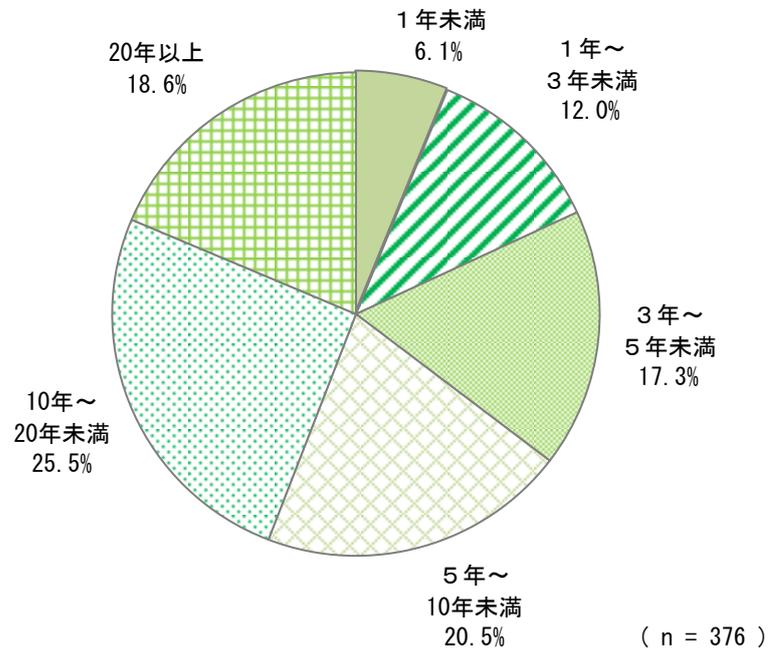
(2) 国籍

「中国」が40.7%で最も高く、次いで「ベトナム」が20.5%、「フィリピン」が13.0%となっている。



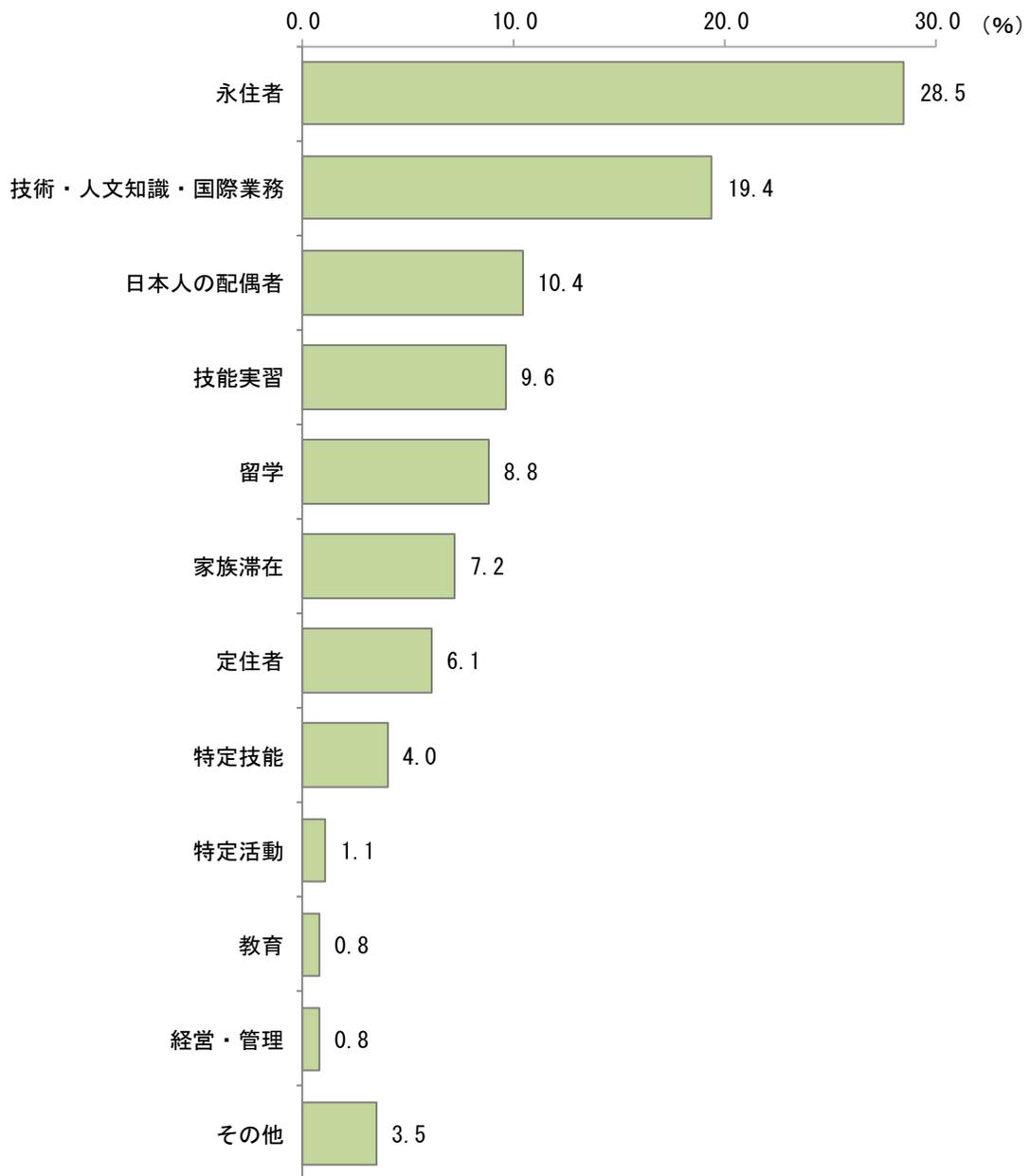
(3) 居住年数

「10年～20年未満」が25.5%、「5年～10年未満」が20.5%、「20年以上」が18.6%、「3年～5年未満」が17.3%、「1年～3年未満」が12.0%となっている。



(4) 在留資格

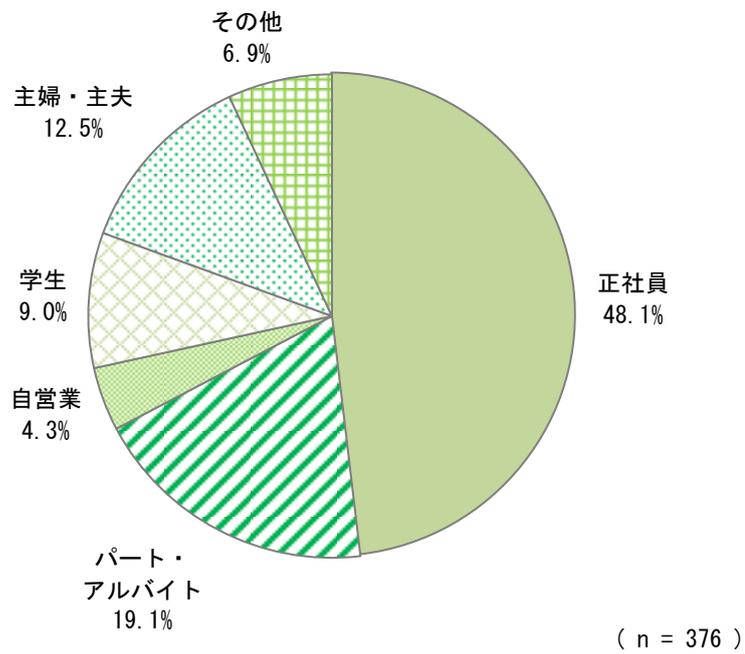
「永住者」が28.5%で最も高く、次いで「技術・人文知識・国際業務」が19.4%、「日本人の配偶者」が10.4%となっている。



(n = 376)

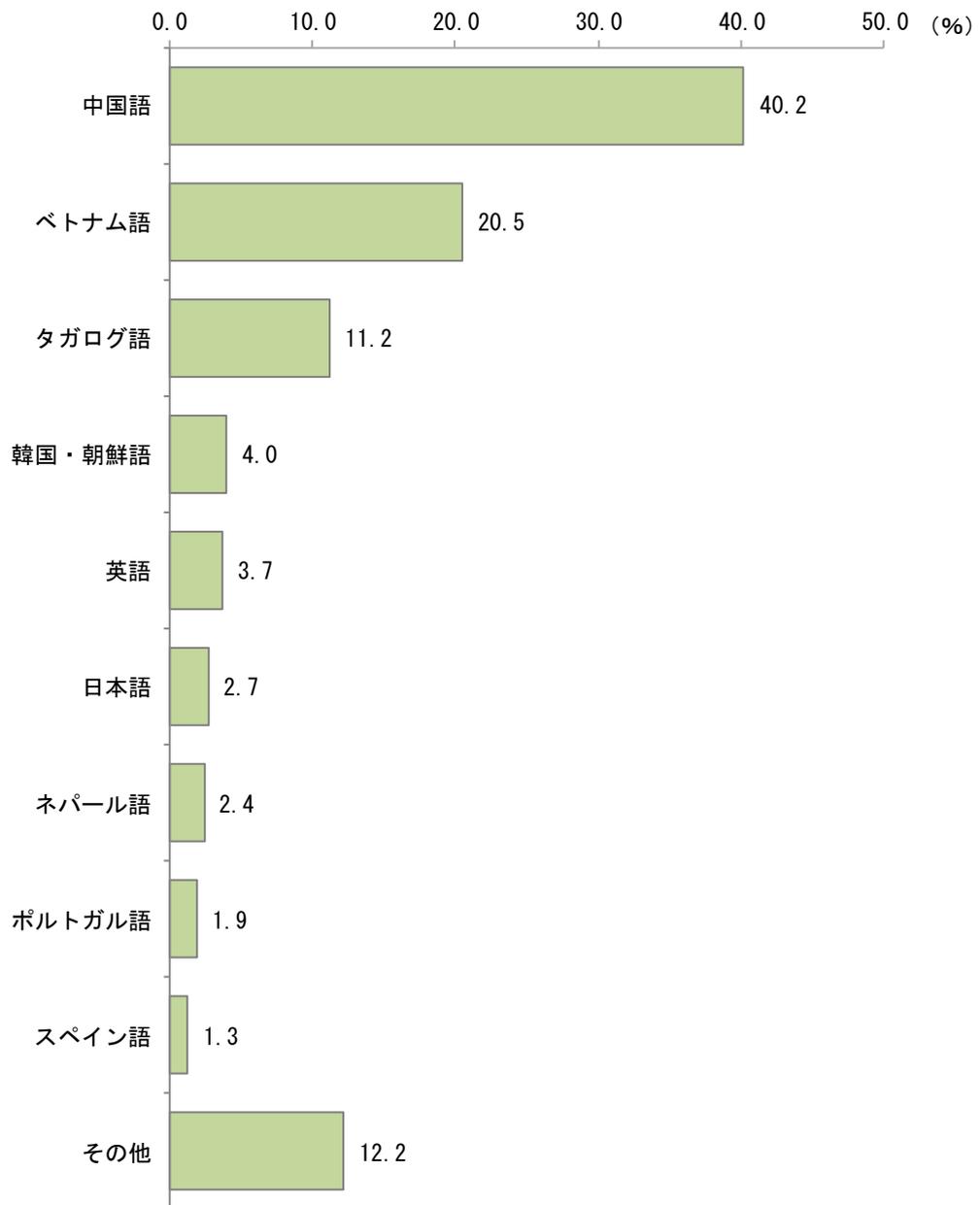
(5) 職業

「正社員」が48.1%で最も高く、次いで「パート・アルバイト」が19.1%、「主婦・主夫」が12.5%となっている。



(6) 母国語

「中国語」が40.2%で最も高く、次いで「ベトナム語」が20.5%、「タガログ語」が11.2%となっている。

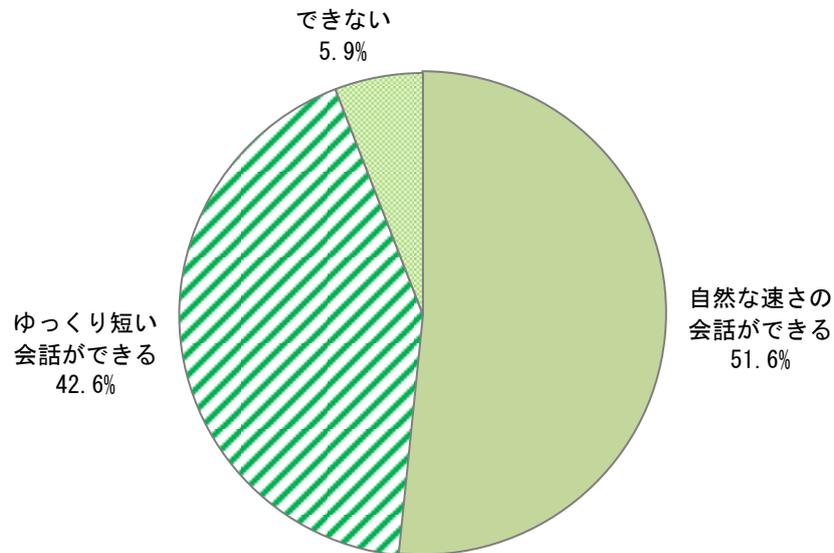


(n = 376)

(7) 日本語能力

Q1. あなたは日本語でどれくらい会話ができますか。(ひとつだけ)

「自然な速さの会話ができる」が51.6%、「ゆっくり短い会話ができる」が42.6%となっている。

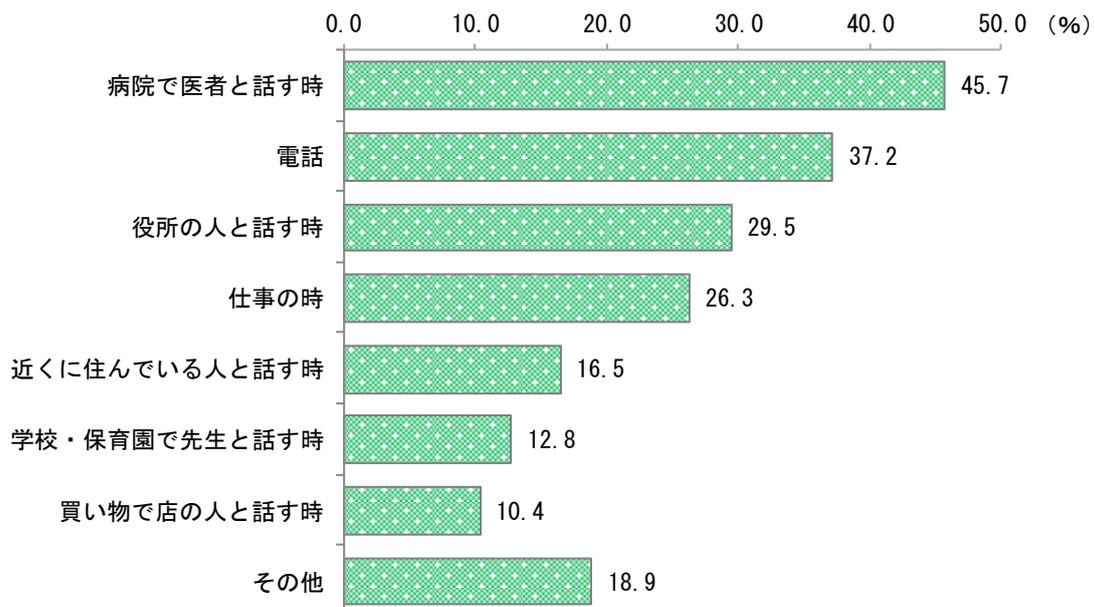


(n = 376)

(8) 日本人と話す時に困ること

Q2. 日本人と話して、困った時は、次のうちどれですか。(あてはまるものぜんぶ)

「病院で医者と話すと時」が45.7%で最も高く、次いで「電話」が37.2%、「役所の人と話すと時」が29.5%、「仕事の時」が26.3%と続いている。

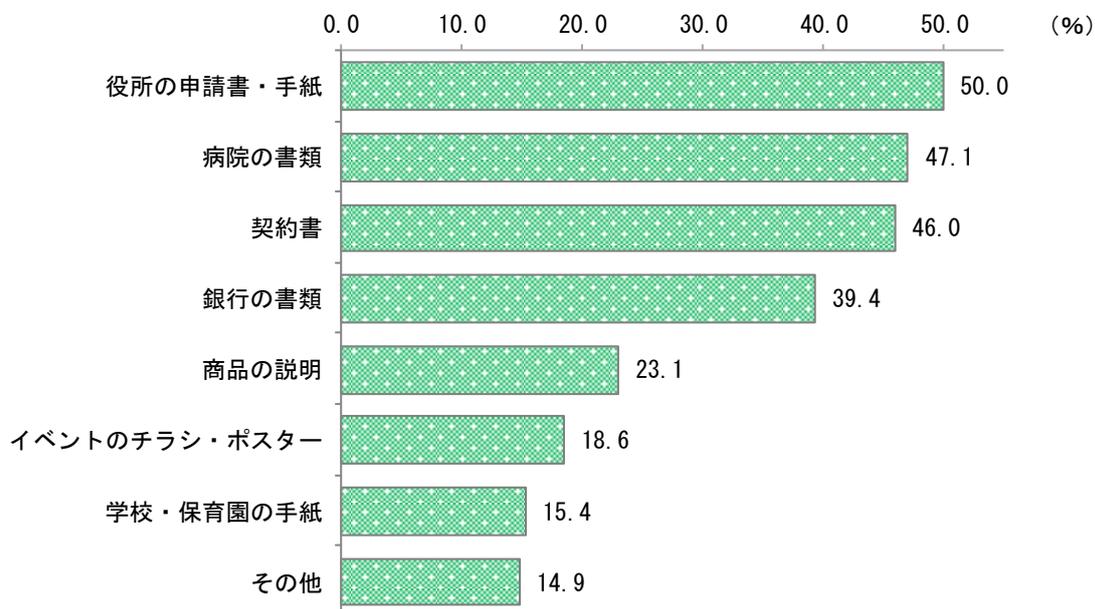


(n = 376)

(9) 日本語を読む時に難しいこと

Q3. 日本語を読む時に難しかったのは、次のうちどれですか。(あてはまるものぜんぶ)

「役所の申請書・手紙」が50.0%で最も高く、次いで「病院の書類」が47.1%、「契約書」が46.0%、「銀行の書類」が39.4%と続いている。

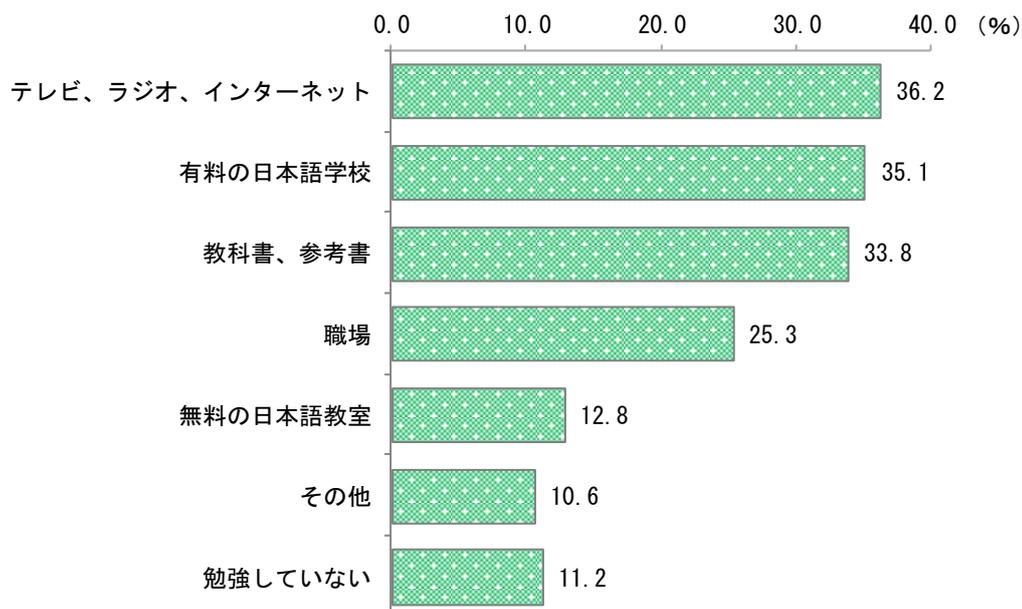


(n = 376)

(10) 日本語の勉強方法

Q4. あなたは、どうやって日本語を勉強していますか。(あてはまるものぜんぶ)

「テレビ、ラジオ、インターネット」が36.2%で最も高く、次いで「有料の日本語学校」が35.1%、「教科書、参考書」が33.8%、「職場」が25.3%と続いている。

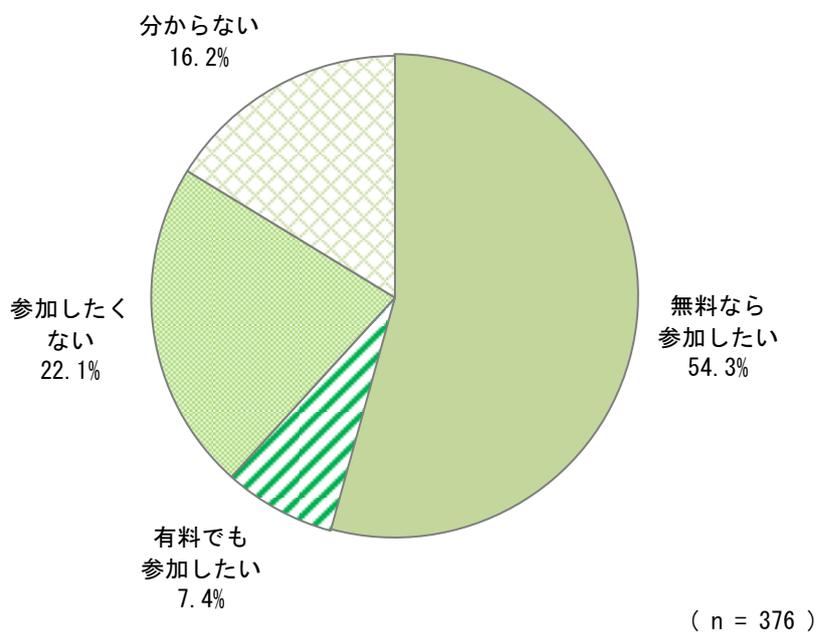


(n = 376)

(11) オンライン日本語教室への参加意向

Q 5. オンライン日本語教室があったら参加したいと思いますか。(ひとつだけ)

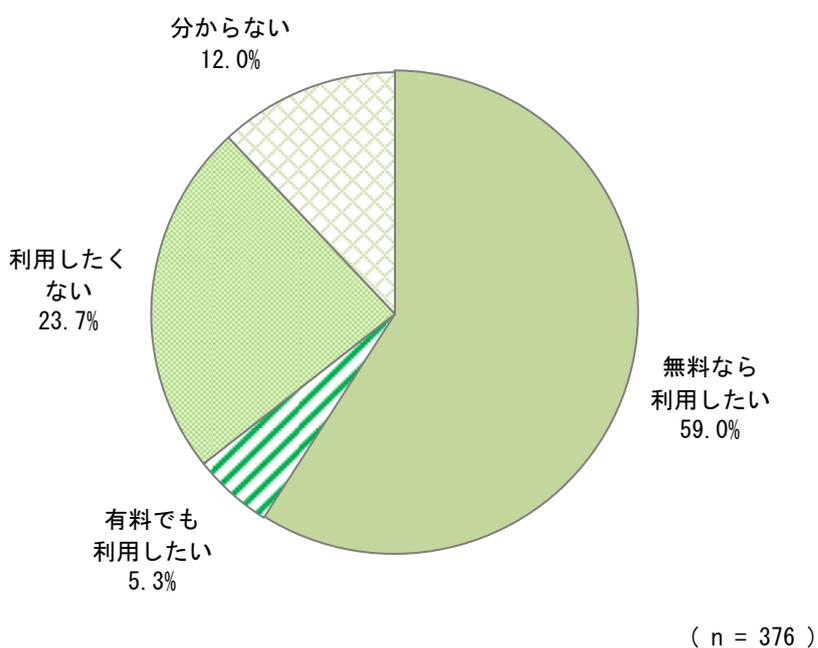
「無料なら参加したい」が54.3%となっている。
一方、「参加したくない」が22.1%となっている。



(12) オンライン通訳サービスの利用意向

Q 6. オンラインでの通訳サービスがあったら利用したいと思いますか。(ひとつだけ)

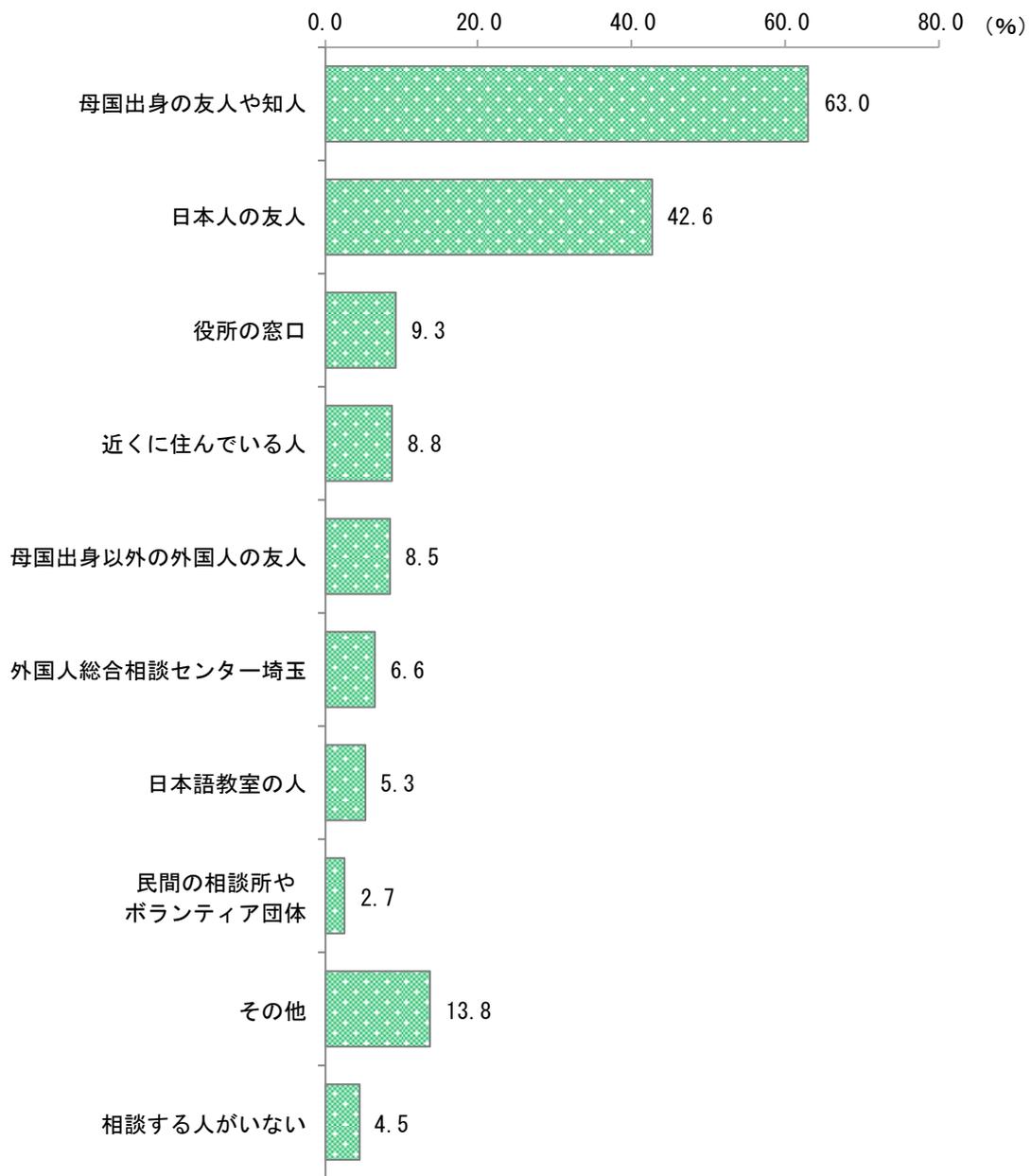
「無料なら利用したい」が59.0%となっている。
一方、「利用したくない」が23.7%となっている。



(13) 困ったときの相談先

Q7. 生活の中で困ったときに誰に相談しますか。(あてはまるものぜんぶ)

「母国出身の友人や知人」が63.0%で最も高く、次いで「日本人の友人」が42.6%となっている。

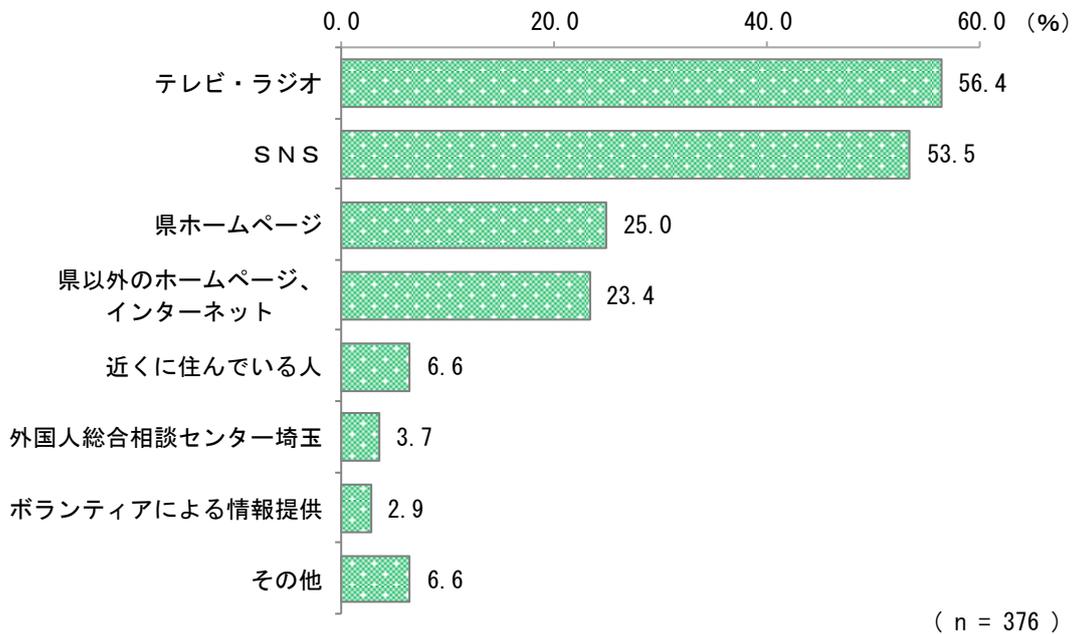


(n = 376)

(14) 災害や感染症についての情報の入手先

Q 8. 災害や感染症についての情報を、どのように受け取っていますか。(あてはまるものぜんぶ)

「テレビ・ラジオ」が56.4%、「SNS」が53.5%となっている。

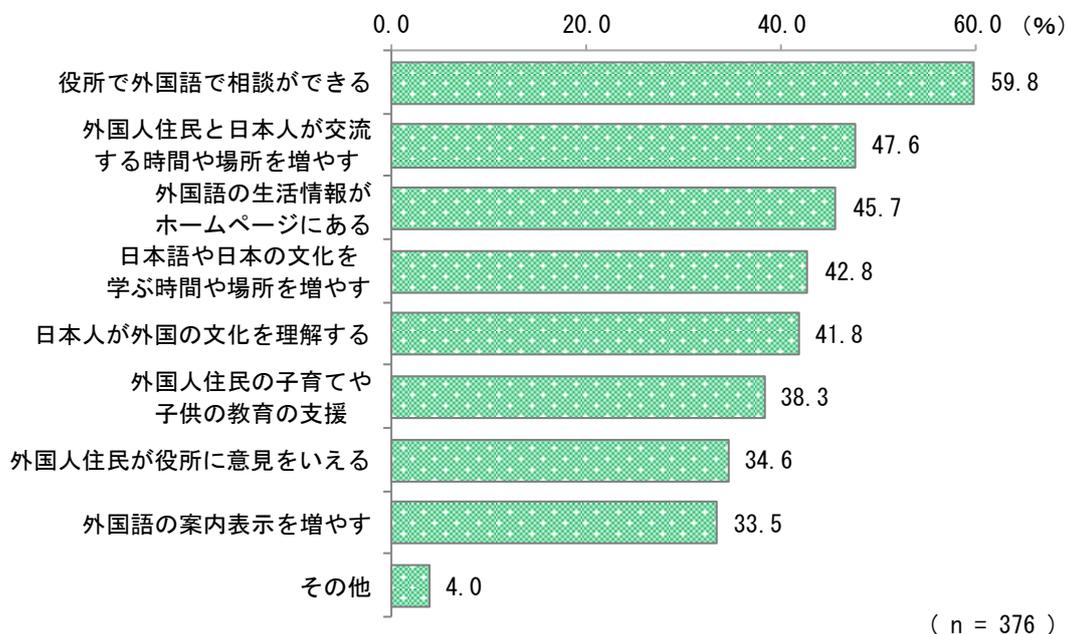


(15) 外国人住民が暮らしやすい地域にするために必要なこと

Q 9. 外国人住民が暮らしやすい地域にするために何が必要だと思いますか。

(あてはまるものぜんぶ)

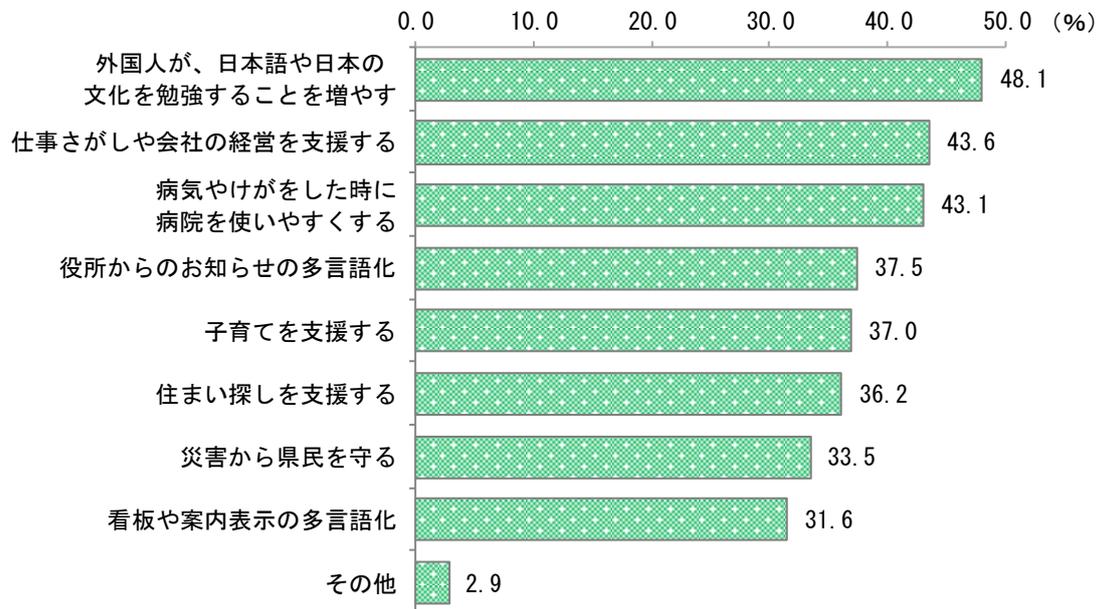
「役所で外国語で相談ができる」が59.8%で最も高く、次いで「外国人住民と日本人が交流する時間や場所を増やす」が47.6%、「外国語の生活情報がホームページにある」が45.7%、「日本語や日本の文化を学ぶ時間や場所を増やす」が42.8%、「日本人が外国の文化を理解する」が41.8%と続いている。



(16) 役所に求めること

Q10. 役所にしてほしいことは何ですか。(あてはまるものぜんぶ)

「外国人が、日本語や日本の文化を勉強することを増やす」が48.1%で最も高く、次いで「仕事さがしや会社の経営を支援する」が43.6%、「病気やけがをした時に病院を使いやすくする」が43.1%、「役所からのお知らせの多言語化」が37.5%、「子育てを支援する」が37.0%と続いている。

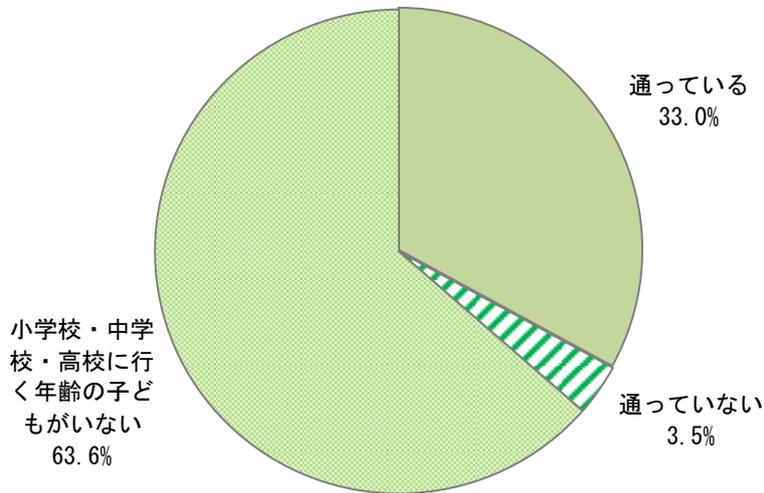


(n = 376)

(17) 学齡期の子どもの有無

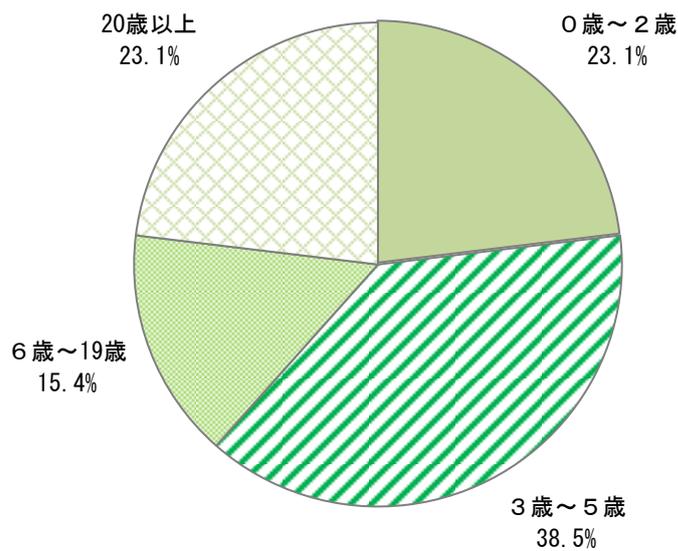
Q11-1. 家族に小学校・中学校・高校に行く年齢の子どもがいる人に聞きます。
学校に通っていますか。(ひとつだけ)

「小学校・中学校・高校に行く年齢の子どもがいない」が63.6%で最も高くなっている。一方、「通っている」が33.0%、「通っていない」が3.5%となっている。



(n = 376)

「通っていない」子どもの年齢は、回答者数が少ないため、参考として掲載する。

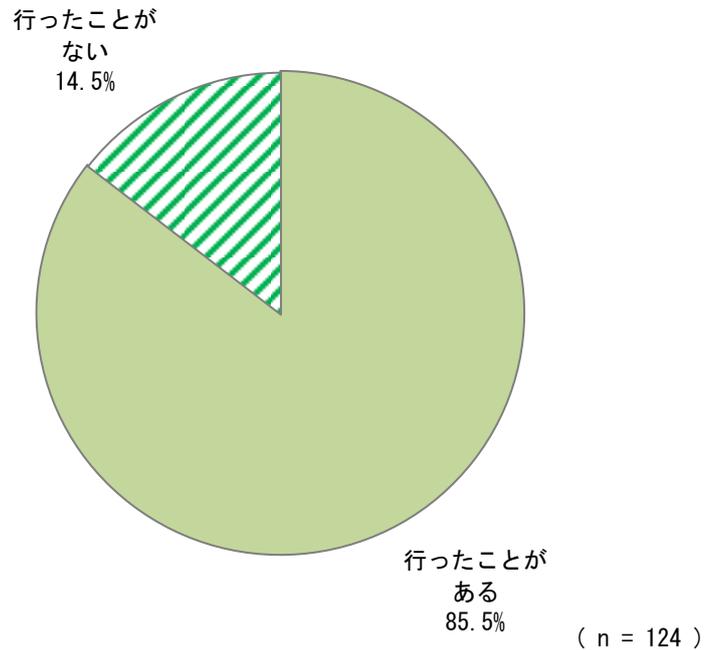


(n = 13)

(18) 子どもの学校へ行ったことがあるか

Q11-2. 子どもの学校へ行ったことがありますか。(ひとつだけ)

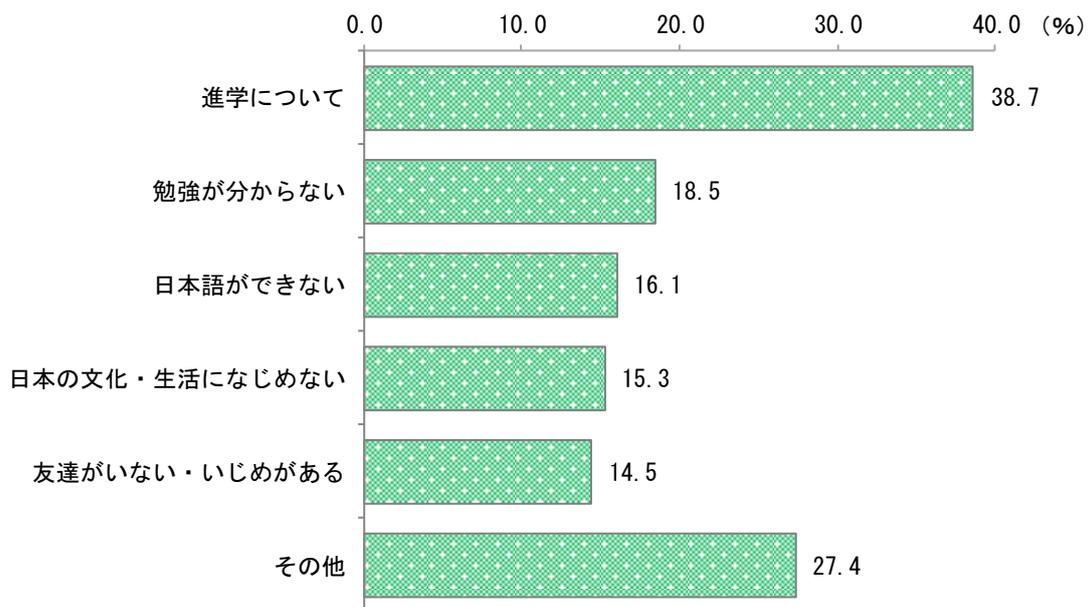
「行ったことがある」が85.5%となっている。



(19) 子どもの教育で困ったこと

Q11-3. 子どもの教育で困ったことはありますか。(あてはまるものぜんぶ)

「進学について」が38.7%で最も高く、次いで「勉強が分からない」が18.5%、「日本語ができない」が16.1%、「日本の文化・生活になじめない」が15.3%、「友達がいない・いじめがある」が14.5%となっている。

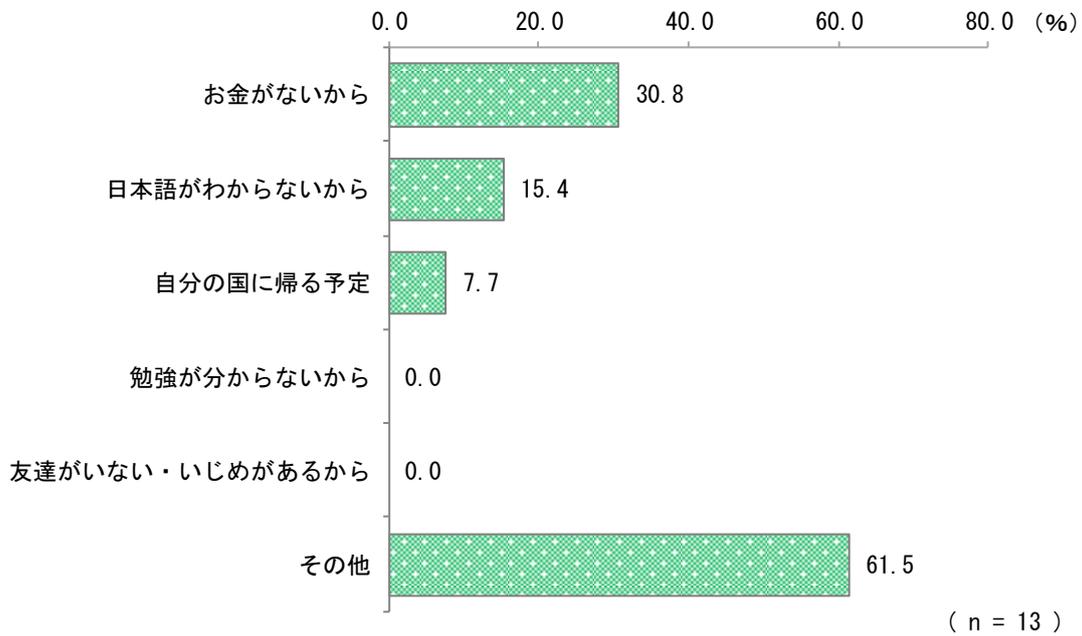


(n = 124)

(20) 子どもが学校に通っていない理由

Q11-4. なぜ学校に通っていないのですか。(あてはまるものぜんぶ)

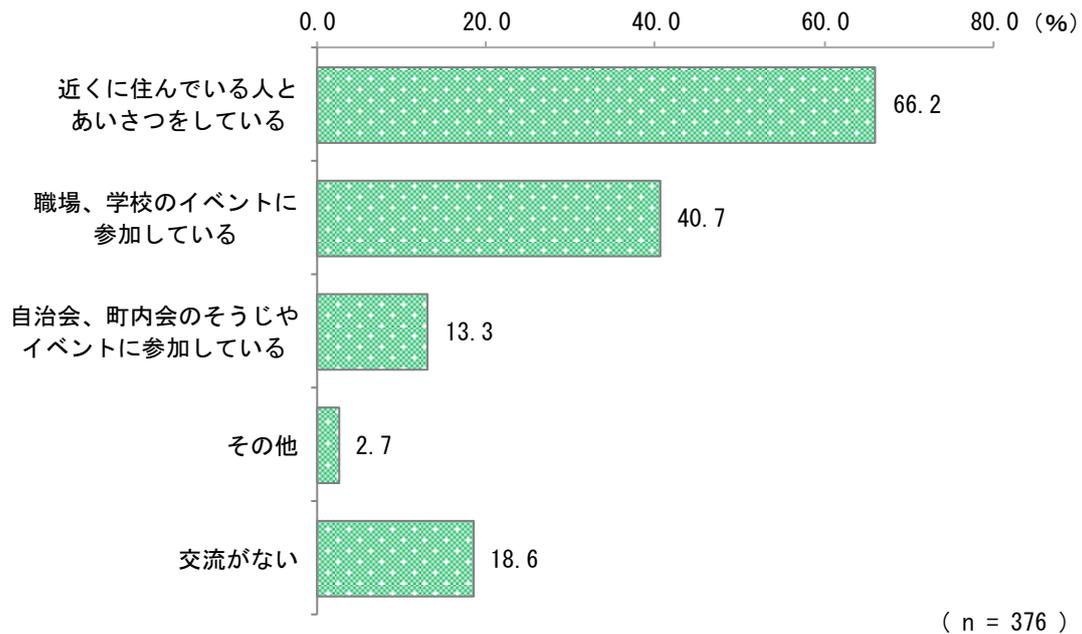
子どもが学校に通っていない理由は、回答者数が少ないため、参考として掲載する。



(21) 地域での日本人との交流

Q12-1. 住んでいる地域で、日本人とどのような交流をしていますか。(あてはまるものぜんぶ)

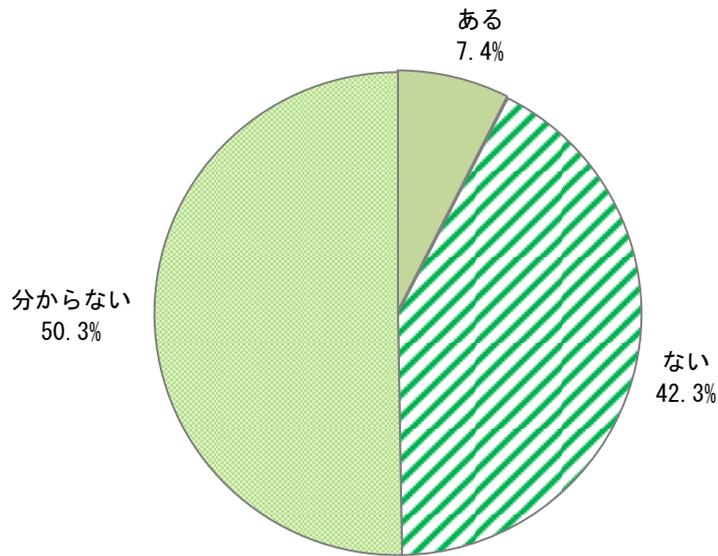
「近くに住んでいる人とあいさつをしている」が66.2%で最も高く、次いで「職場、学校のイベントに参加している」が40.7%となっている。



(22) 同じ国・宗教の人たちのコミュニティの有無

Q12-2. 住んでいる地域で同じ国の人や同じ宗教の人たちのコミュニティはありますか。
(ひとつだけ)

「ある」が7.4%、「ない」が42.3%、「分からない」が50.3%となっている。

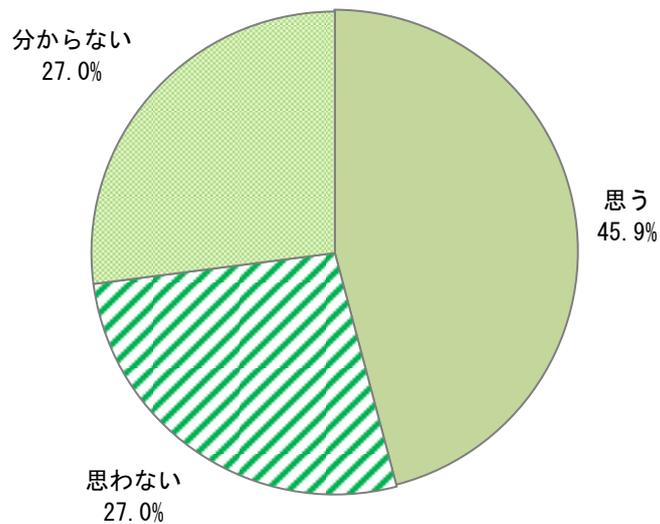


(n = 376)

(23) 同じ国・宗教の人たちのコミュニティの利用意向

Q12-3. 住んでいる地域で同じ国の人や同じ宗教の人たちのコミュニティがあったらよいと思いませんか。(ひとつだけ)

「思う」が45.9%、「思わない」及び「分からない」がともに27.0%となっている。

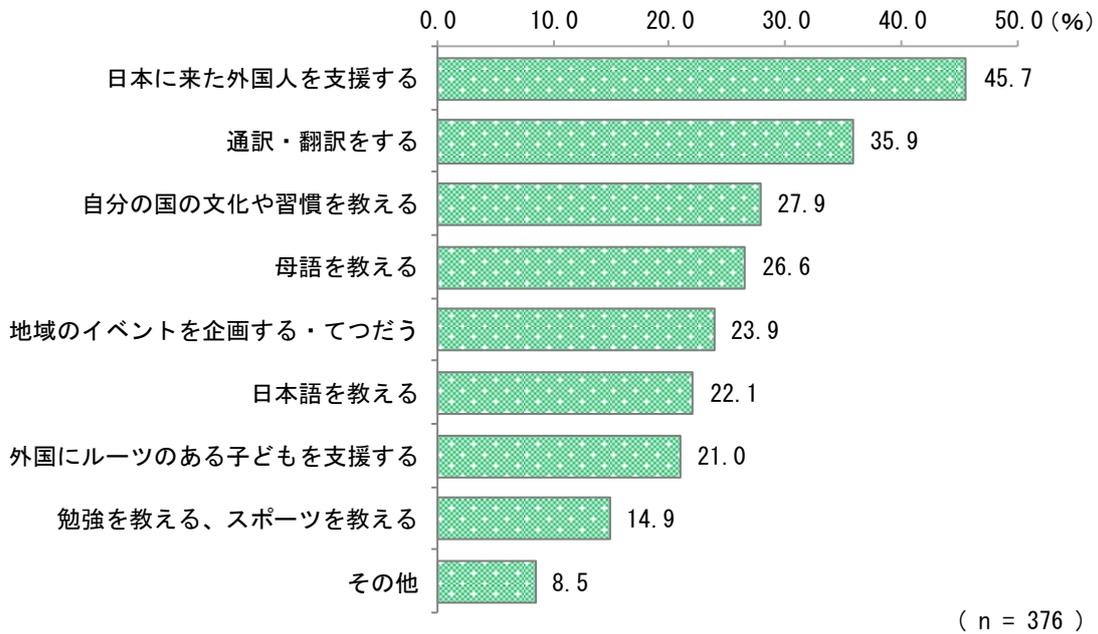


(n = 159)

(24) 今後やってみたいと思う活動

Q13. 今後やってみたいと思う活動は次のうちどれですか。(あてはまるものぜんぶ)

「日本に来た外国人を支援する」が45.7%で最も高く、次いで「通訳・翻訳をする」が35.9%、「自分の国の文化や習慣を教える」が27.9%、「母語を教える」が26.6%と続いている。

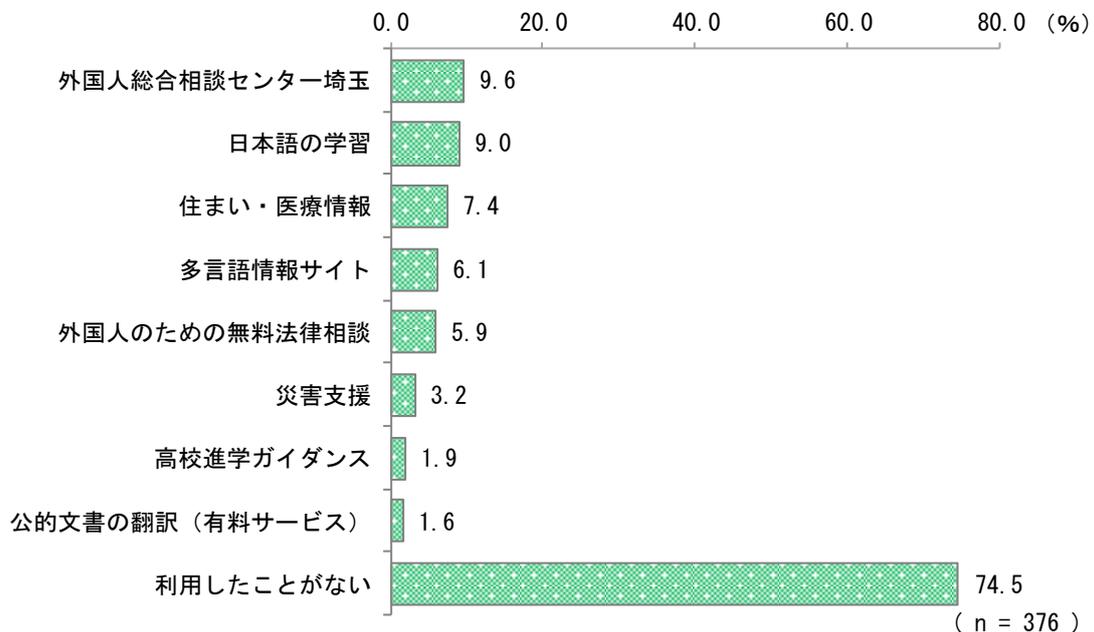


(25) S I Aが提供するサービスの利用経験

Q14. 埼玉県国際交流協会が提供するサービスで、利用したことがあるものはどれですか。(あてはまるものぜんぶ)

「利用したことがない」が74.5%となっている。

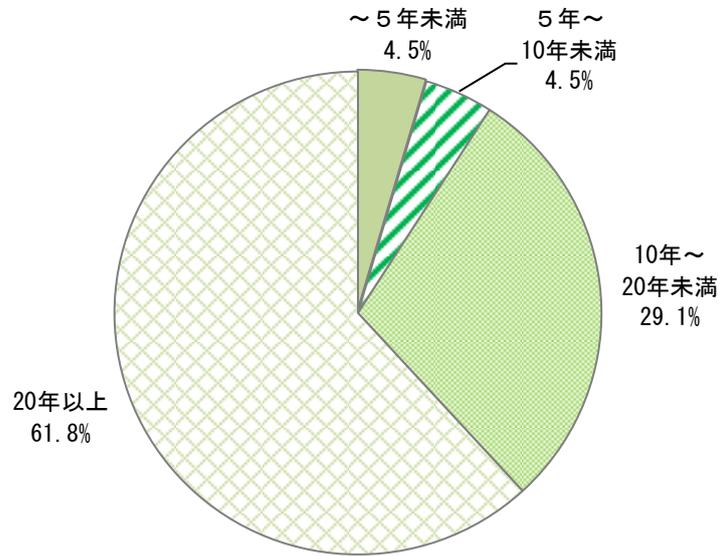
一方、利用したことがあるものは「外国人総合相談センター埼玉」が9.6%、「日本語の学習」が9.0%、「住まい・医療情報」が7.4%となっている。



2 NGO等向け調査

(1) 活動歴

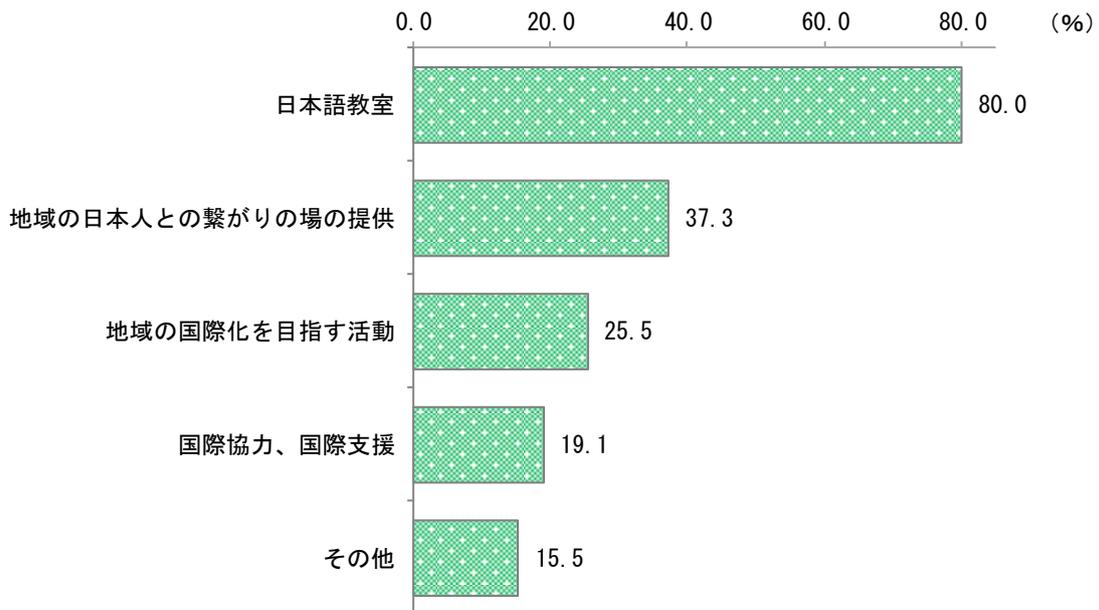
「20年以上」が61.8%で最も高く、次いで「10年～20年未満」が29.1%となっている。



(n = 110)

(2) 活動内容

「日本語教室」が80.0%で最も高く、次いで「地域の日本人との繋がり場の提供」が37.3%、「地域の国際化を目指す活動」が25.5%、「国際協力、国際支援」が19.1%となっている。

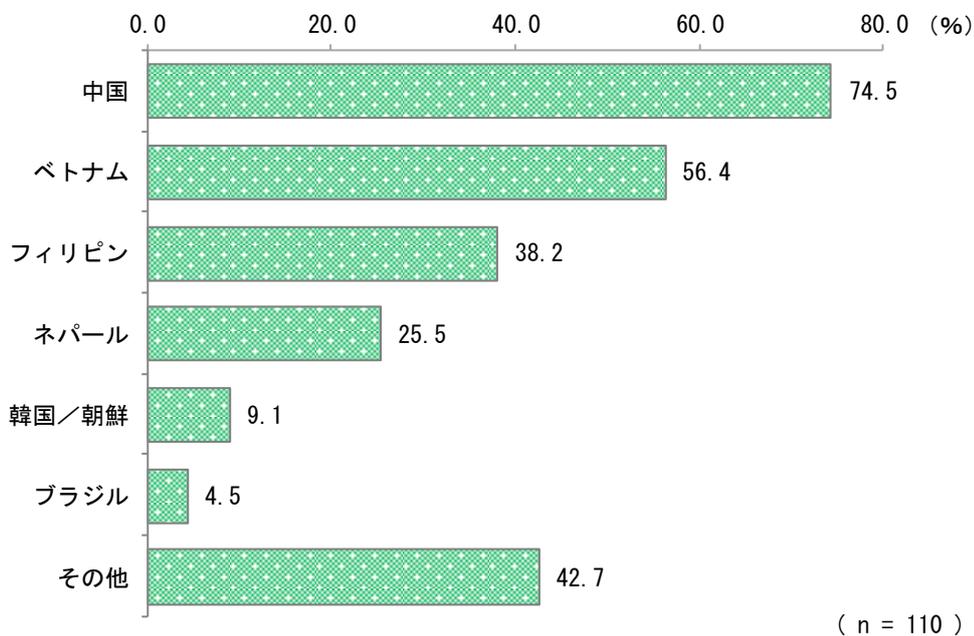


(n = 110)

(3) 支援している方の国籍

Q 1. 支援している外国人は、どちらの国の方が多いですか。(複数選択可)

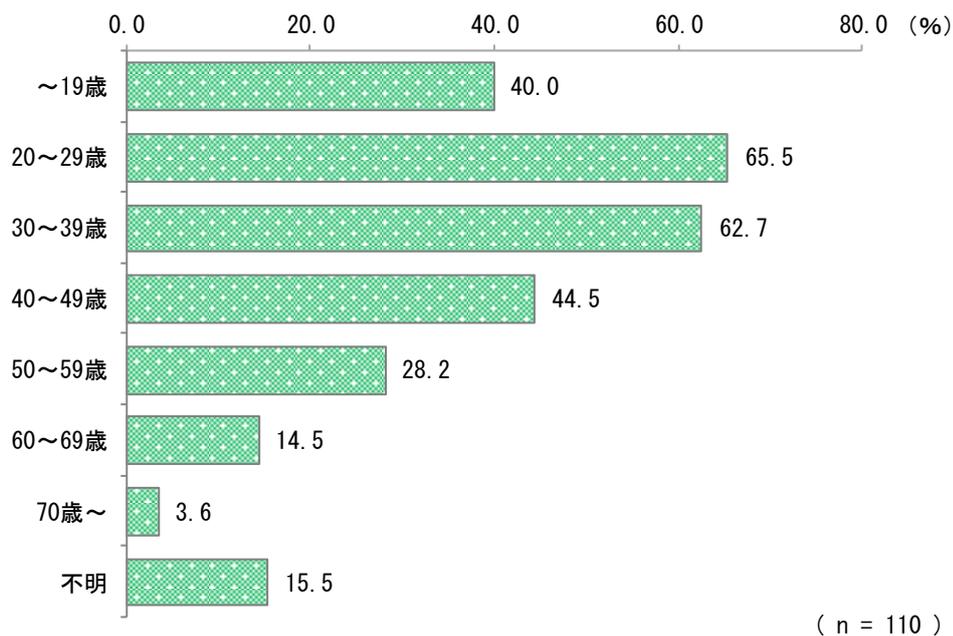
「中国」が74.5%で最も高く、次いで「ベトナム」が56.4%、「フィリピン」が38.2%、「ネパール」が25.5%と続いている。



(4) 支援している方の年齢

Q 2. 支援している外国人の年齢を教えてください。(複数選択可)

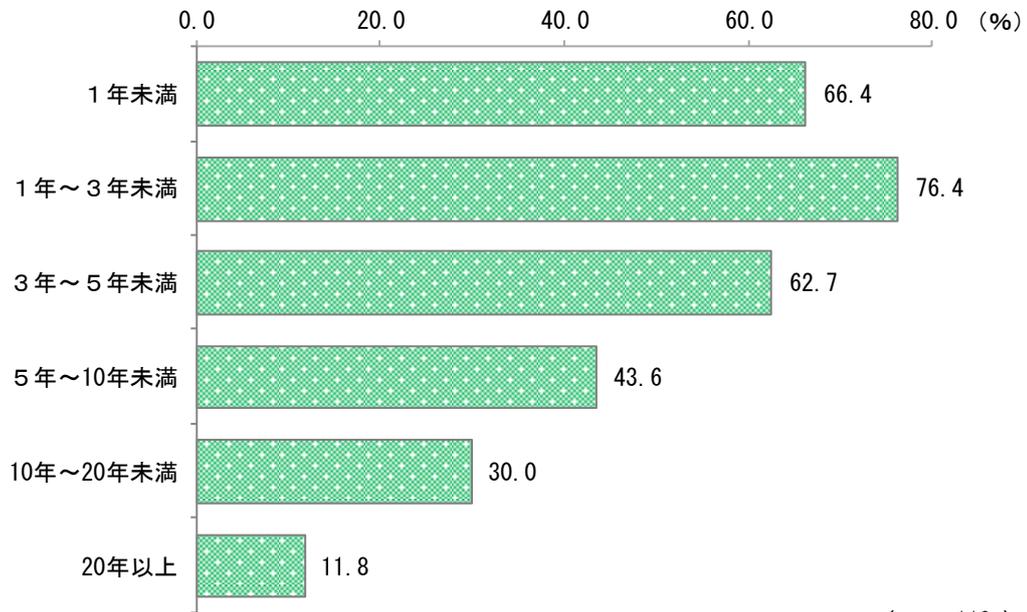
「20～29歳」が65.5%で最も高く、次いで「30～39歳」が62.7%、「40～49歳」が44.5%、「～19歳」が40.0%と続いている。



(5) 支援している方の居住年数

Q3. 支援している外国人は、どのくらい日本に住んでいますか。(複数選択可)

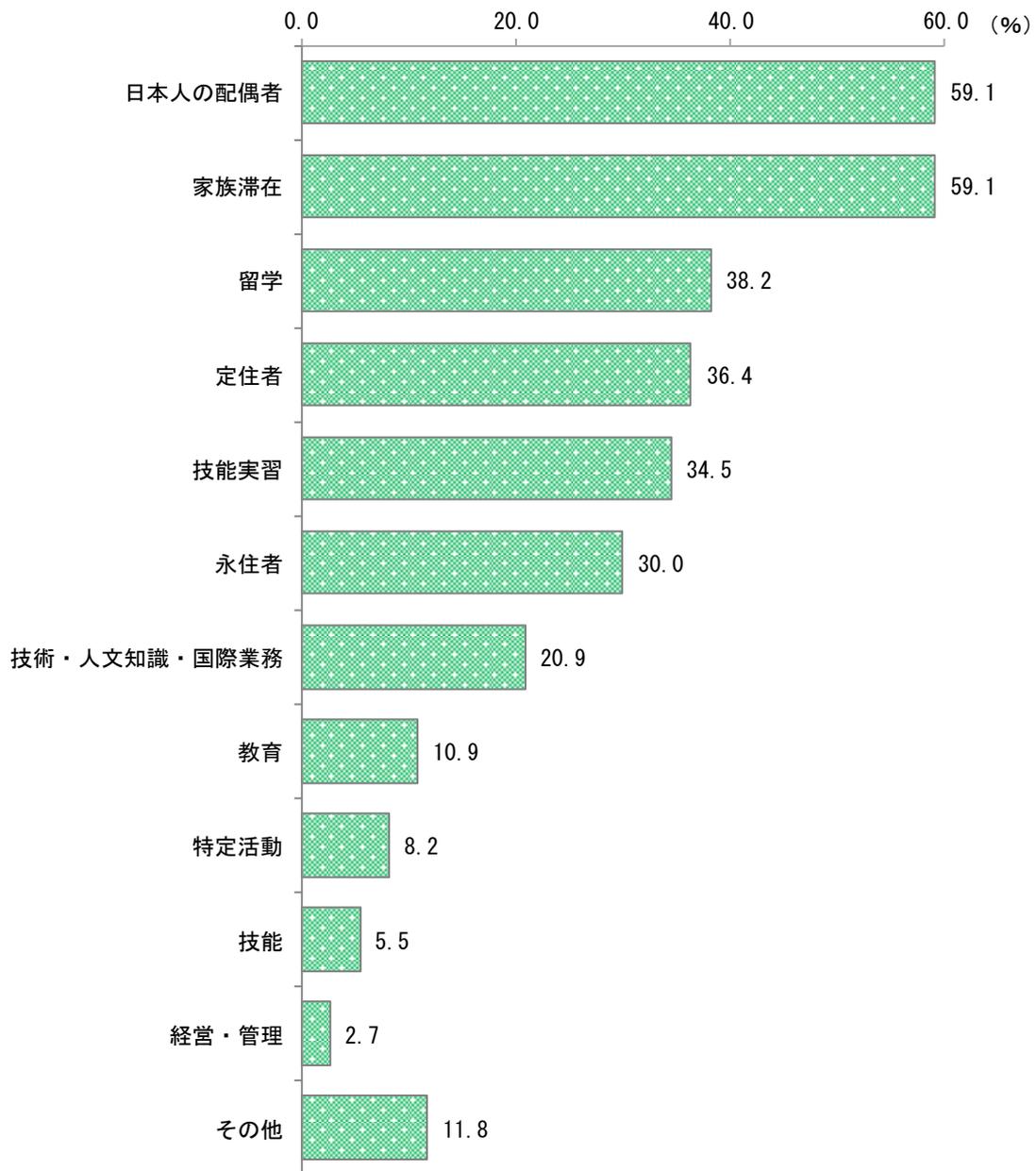
「1年～3年未満」が76.4%で最も高く、次いで「1年未満」が66.4%、「3年～5年未満」が62.7%、「5年～10年未満」が43.6%、「10年～20年未満」が30.0%、「20年以上」が11.8%となっている。



(6) 支援している方の在留資格

Q4. 支援している外国人の在留資格は何ですか。(複数選択可)

「日本人の配偶者」及び「家族滞在」がともに 59.1%で最も高くなっている。次いで「留学」が 38.2%、「定住者」が 36.4%、「技能実習」が 34.5%、「永住者」が 30.0%と続いている。

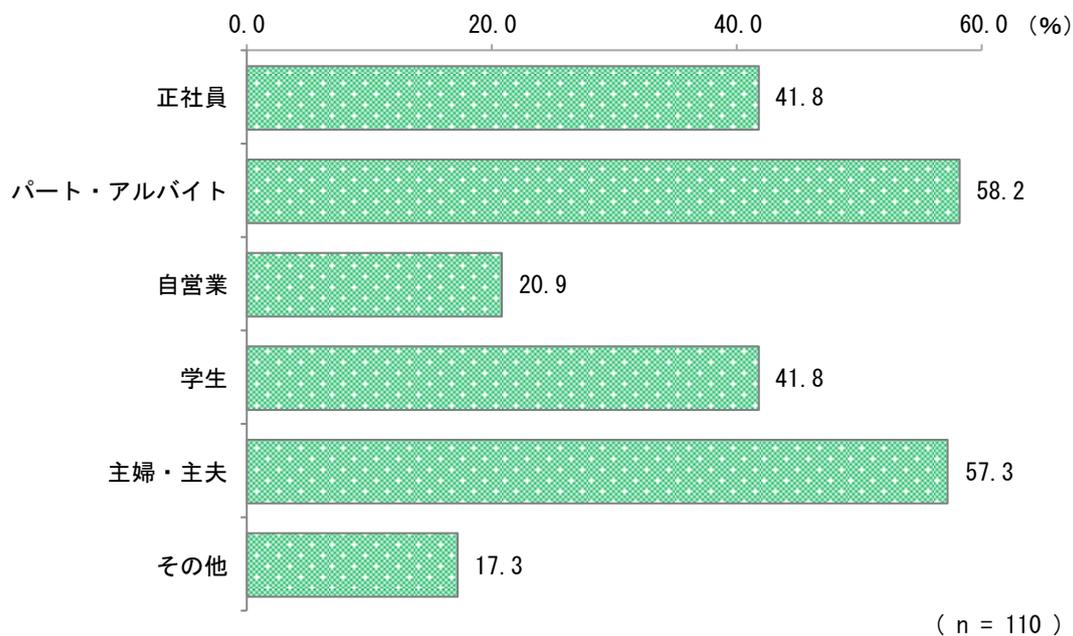


(n = 110)

(7) 支援している方の仕事

Q5. 支援している外国人の仕事は何ですか。(複数選択可)

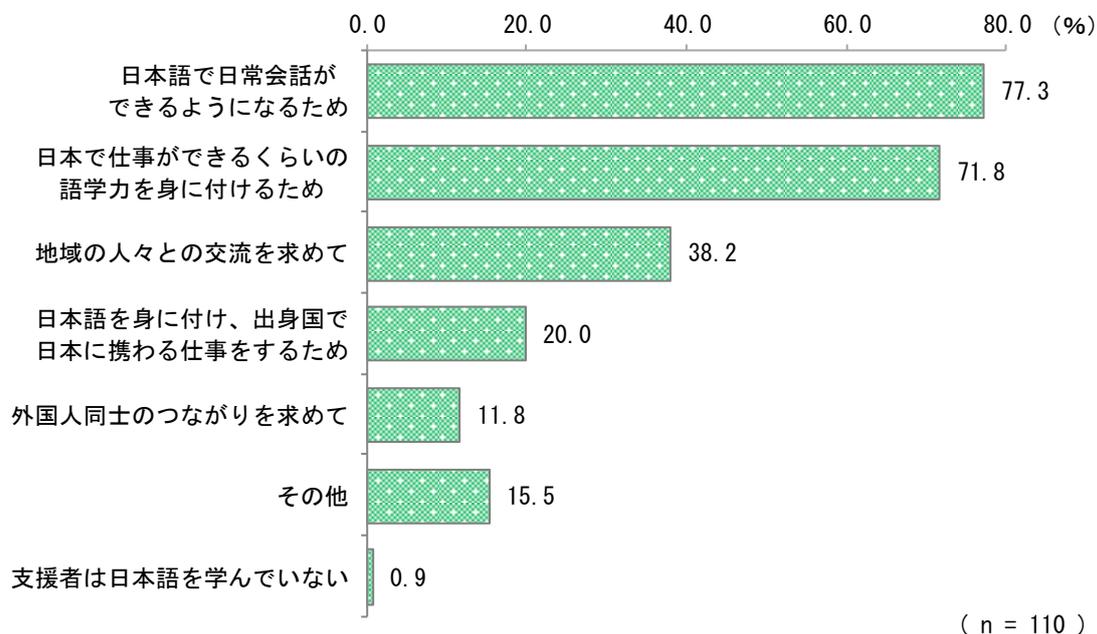
「パート・アルバイト」が58.2%で最も高く、次いで「主婦・主夫」が57.3%、「正社員」及び「学生」がともに41.8%となっている。



(8) 支援している方の日本語を学ぶ目的

Q6. 何を目的として日本語を学んでいると思いますか。(複数選択可)

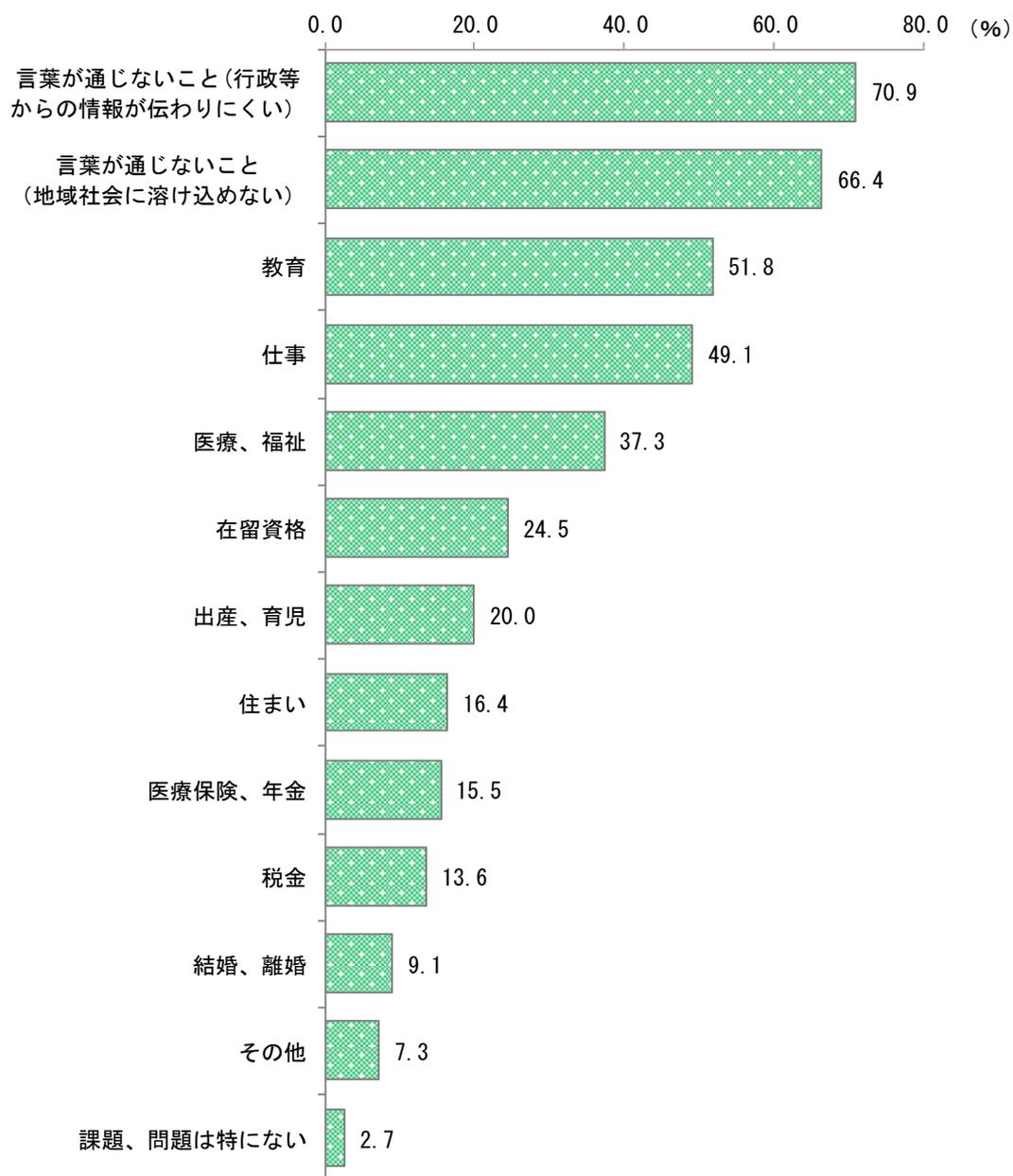
「日本語で日常会話ができるようになるため」が77.3%で最も高く、次いで「日本で仕事ができるくらいの語学力を身に付けるため」が71.8%となっている。以下「地域の人々との交流を求めて」が38.2%、「日本語を身に付け、出身国で日本に携わる仕事をするため」が20.0%、「外国人同士のつながりを求めて」が11.8%となっている。



(9) 支援している方の生活で困っていること・不安に思うこと

Q7. 日本の生活で困っていることや、不安に思っていることは、どのようなことだと思いますか。
(複数選択可)

「言葉が通じないこと(行政等からの情報が伝わりにくい)」が70.9%で最も高く、次いで「言葉が通じないこと(地域社会に溶け込めない)」が66.4%、「教育」が51.8%、「仕事」が49.1%、「医療、福祉」が37.3%と続いている。

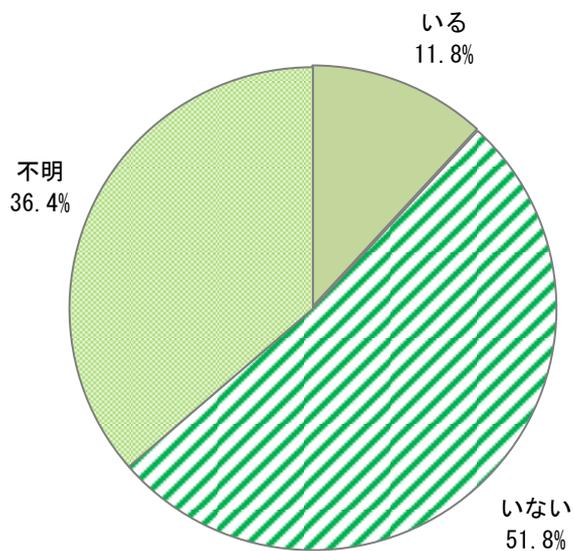


(n = 110)

(10) 支援している方（家族を含む）の不就学者の有無

Q 8. 支援している外国人（ご家族も含め）の中に、児童・生徒で不就学状況にある方はいますか。
（1つ選択）

「いる」が11.8%、「いない」が51.8%、「不明」が36.4%となっている。

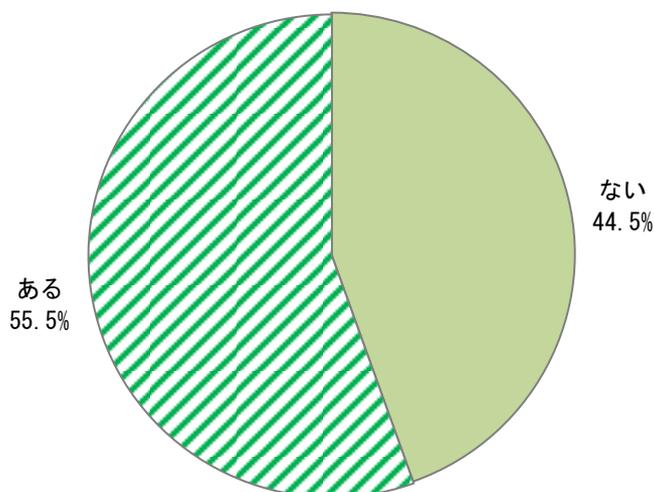


(n = 110)

(11) 外国人と日本人との交流促進のための取り組みの有無

Q 9. 日本語が不自由な外国人住民と日本人との交流を促進するきっかけづくりとして行っている取り組みはありますか。また、あると答えた方は、どのような取り組みを行っていますか。
（1つ選択）（例：祭り等のイベント、清掃活動、医療等の相談会等）

「ある」が55.5%、「ない」が44.5%となっている。

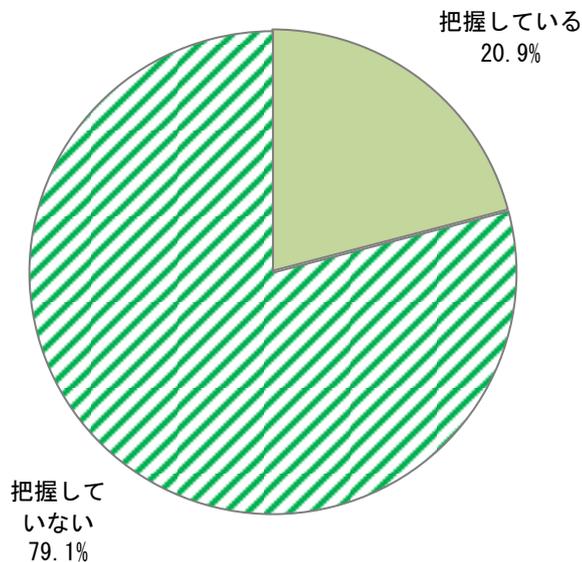


(n = 110)

(12) 外国人住民と地域をつなぐキーパーソンの把握

Q10. 外国人住民と地域を繋ぐ、出身国別（言語別）の外国人キーパーソンを把握していますか。
把握していると答えた方は、その方の国籍を教えてください。（1つ選択）

「把握していない」が79.1%となっている。

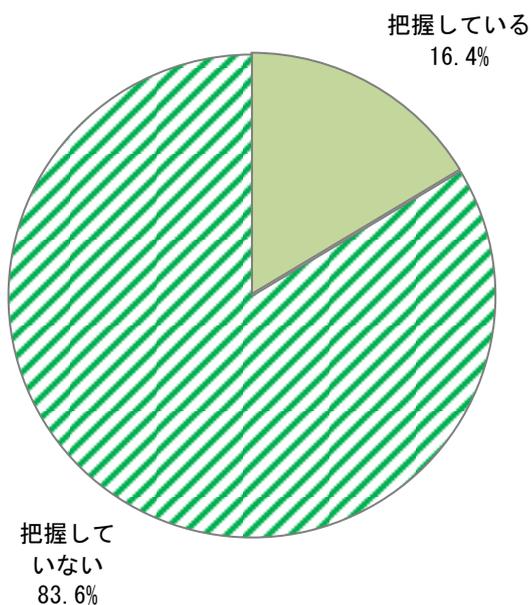


(n = 110)

(13) 外国人コミュニティの把握

Q11. 外国人住民と地域を繋ぐ、出身国別（言語別）の外国人コミュニティを把握していますか。
把握していると答えた方は、その国名またはコミュニティ名を教えてください。（1つ選択）

「把握していない」が83.6%となっている。

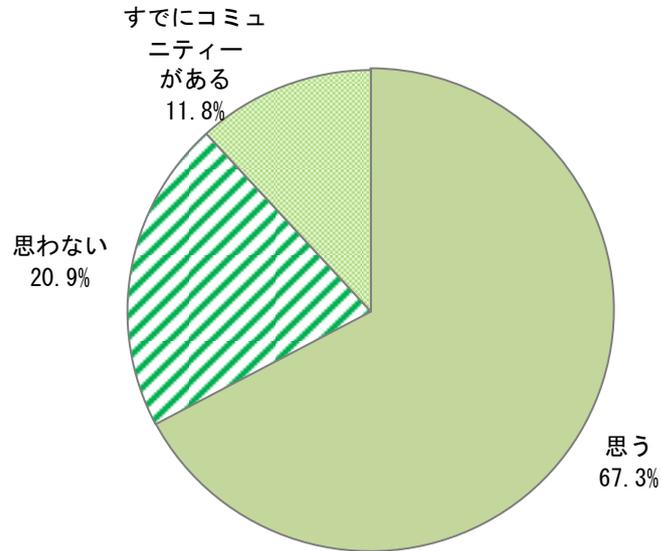


(n = 110)

(14) 外国人コミュニティが地域にあったら良いと思うか

Q12. 外国人住民と地域を繋ぐ、出身国別（言語別）の外国人コミュニティが地域にあったら良いと思いますか。（1つ選択）

「思う」が67.3%、「思わない」が20.9%となっている。
一方、「すでにコミュニティがある」が11.8%となっている。

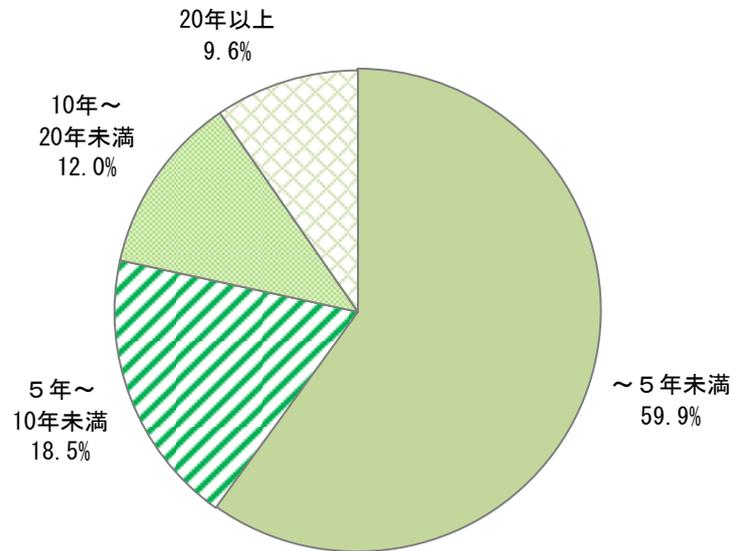


(n = 110)

3 通訳翻訳ボランティア向け調査

(1) 活動歴

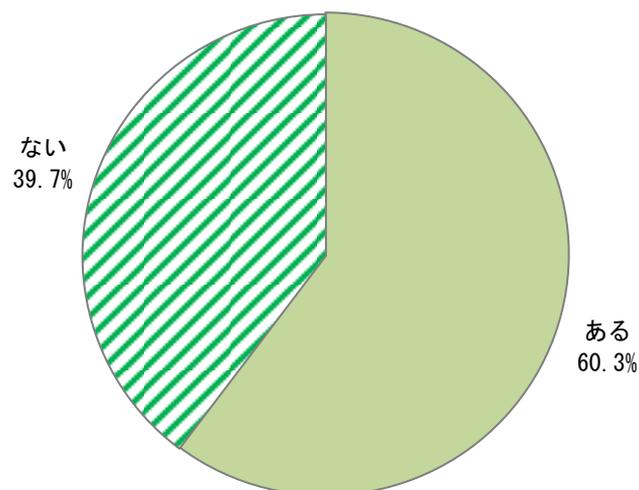
「～5年未満」が59.9%で最も高くなっている。以下「5年～10年未満」が18.5%、「10年～20年未満」が12.0%、「20年以上」が9.6%となっている。



(n = 292)

(2) 外国人住民のための通訳又は翻訳の経験の有無

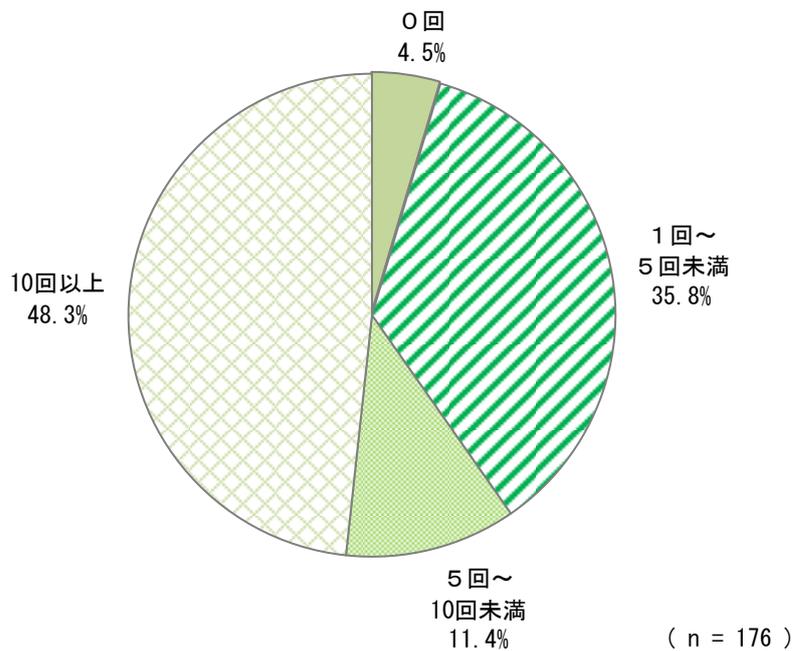
「ある」が60.3%、「ない」が39.7%となっている。



(n = 292)

(3) 通訳又は翻訳等の活動回数

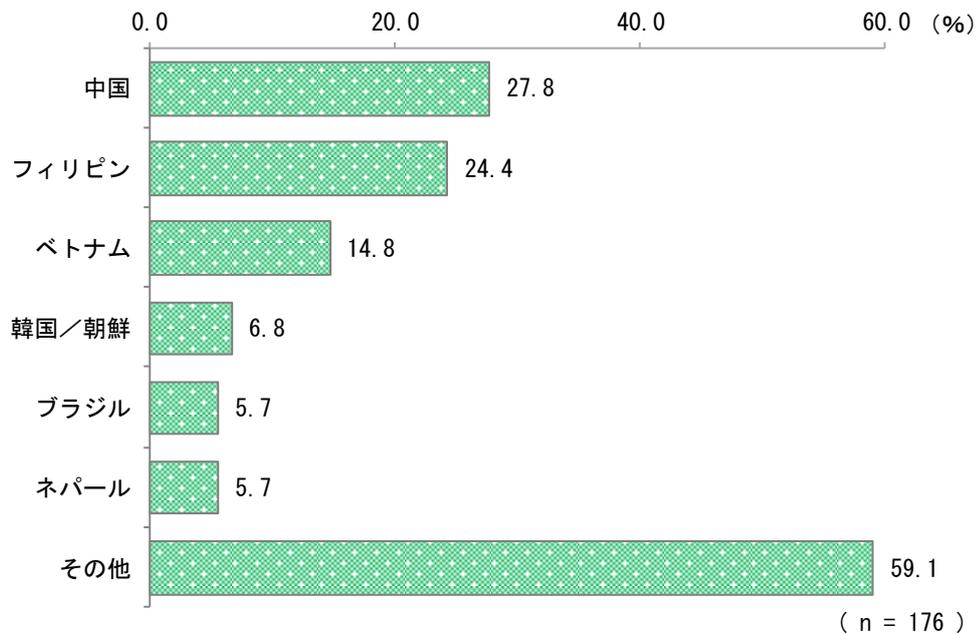
「10回以上」が48.3%で最も高く、次いで「1回～5回未満」が35.8%となっている。



(4) 支援している方の国籍

Q 1. 支援している外国人は、どちらの国の方が多いですか。(複数選択可)

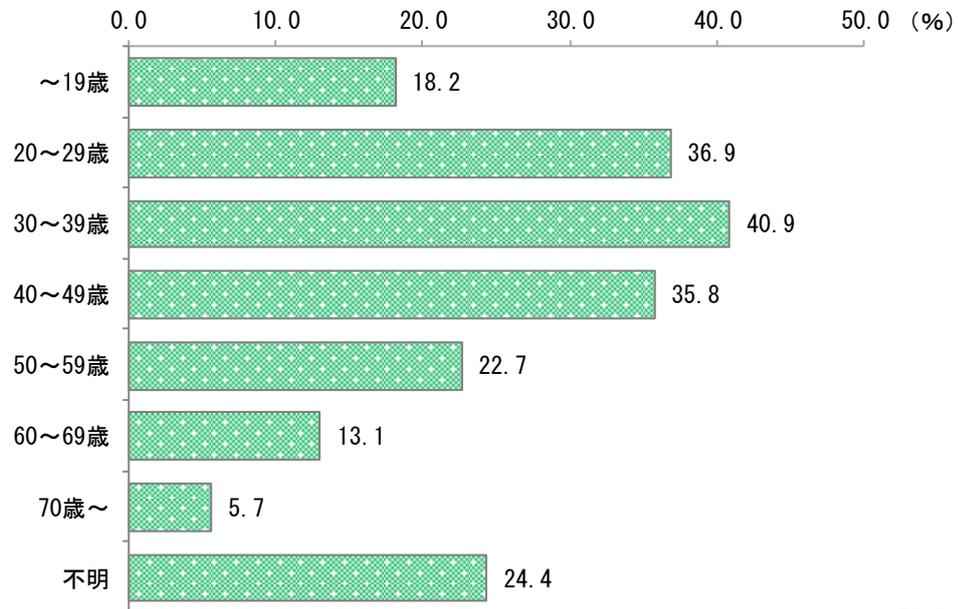
「中国」が27.8%、「フィリピン」が24.4%、「ベトナム」が14.8%となっている。



(5) 支援している方の年齢

Q2. 支援している外国人の年齢を教えてください。(複数選択可)

「30～39歳」が40.9%で最も高く、次いで「20～29歳」が36.9%、「40～49歳」が35.8%と続いている。

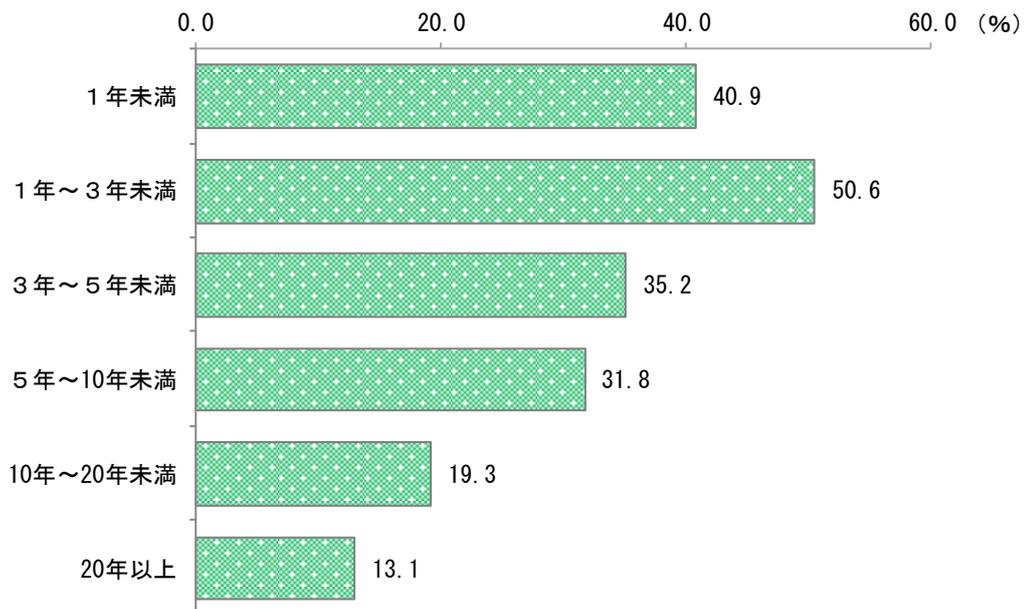


(n = 176)

(6) 支援している方の居住年数

Q3. 支援している外国人は、どのくらい日本に住んでいますか。(複数選択可)

「1年～3年未満」が50.6%で最も高く、次いで「1年未満」が40.9%、「3年～5年未満」が35.2%、「5年～10年未満」が31.8%、「10年～20年未満」が19.3%、「20年以上」が13.1%となっている。

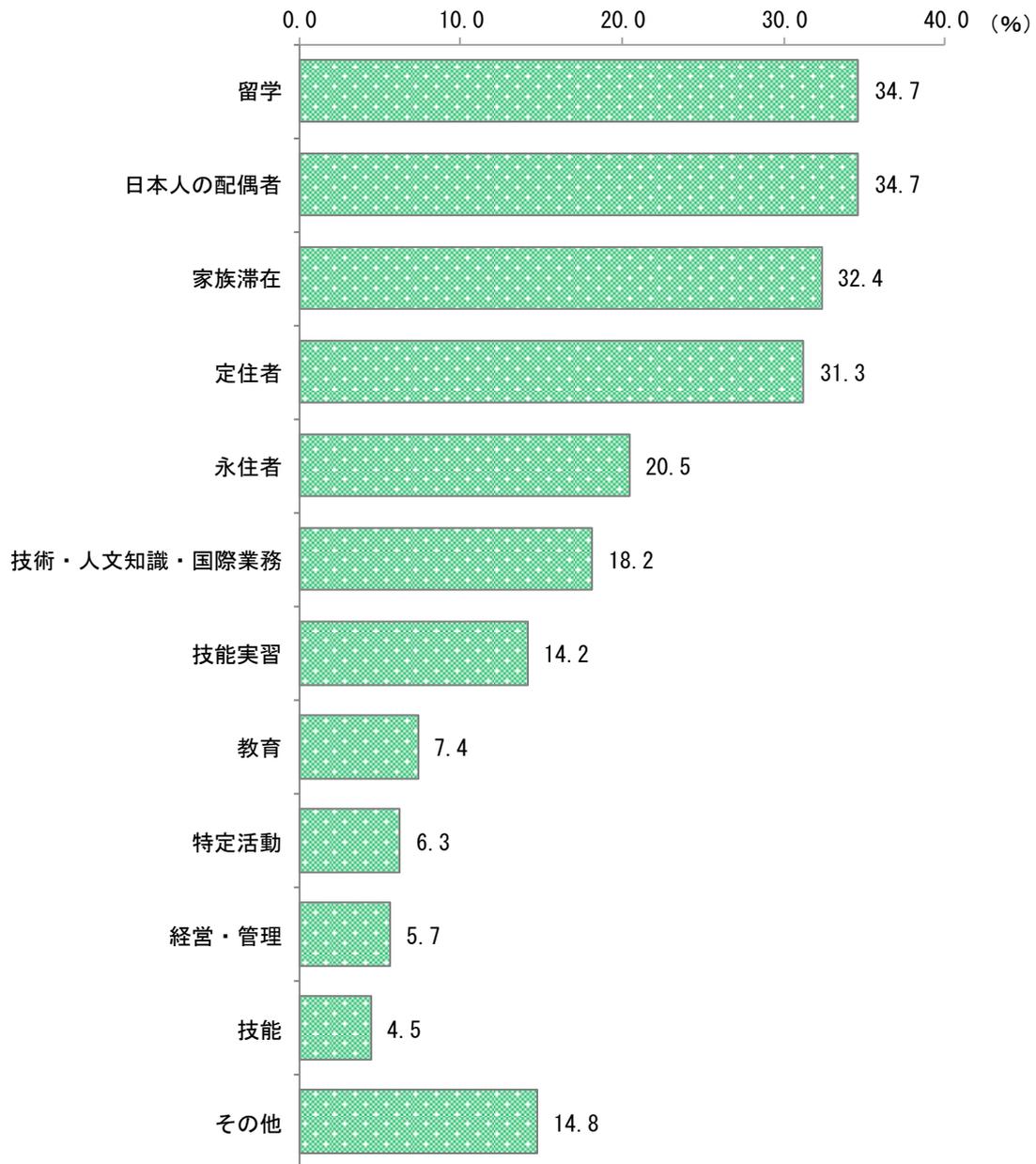


(n = 176)

(7) 支援している方の在留資格

Q4. 支援している外国人の在留資格は何ですか。(複数選択可)

「留学」及び「日本人の配偶者」がともに 34.7%で最も高くなっている。次いで「家族滞在」が 32.4%、「定住者」が 31.3%、「永住者」が 20.5%、「技術・人文知識・国際業務」が 18.2%と続いている。

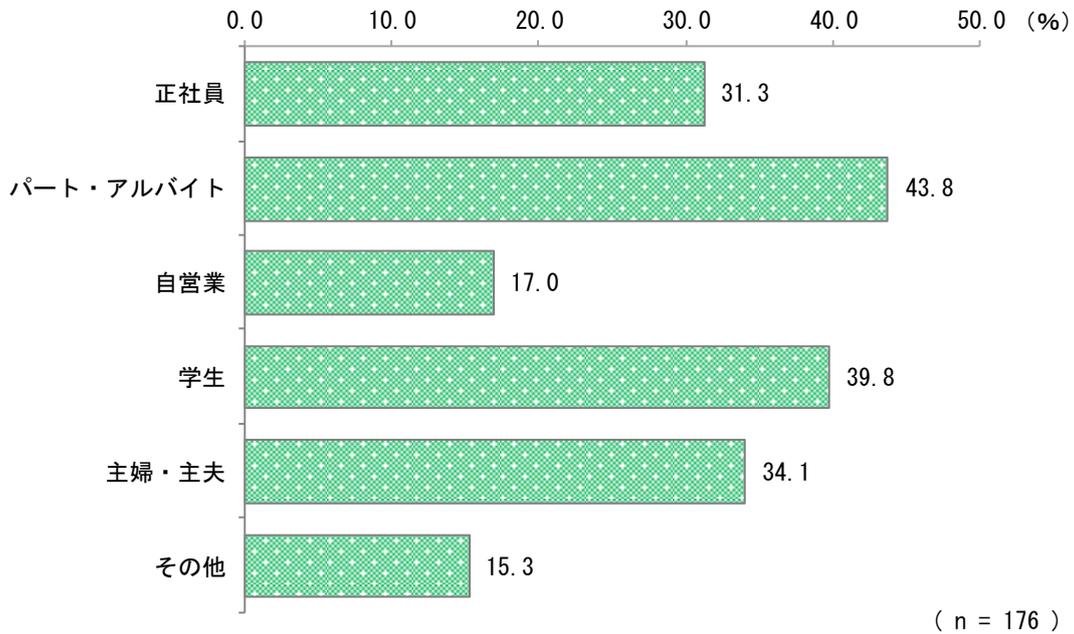


(n = 176)

(8) 支援している方の仕事

Q5. 支援している外国人の仕事は何ですか。(複数選択可)

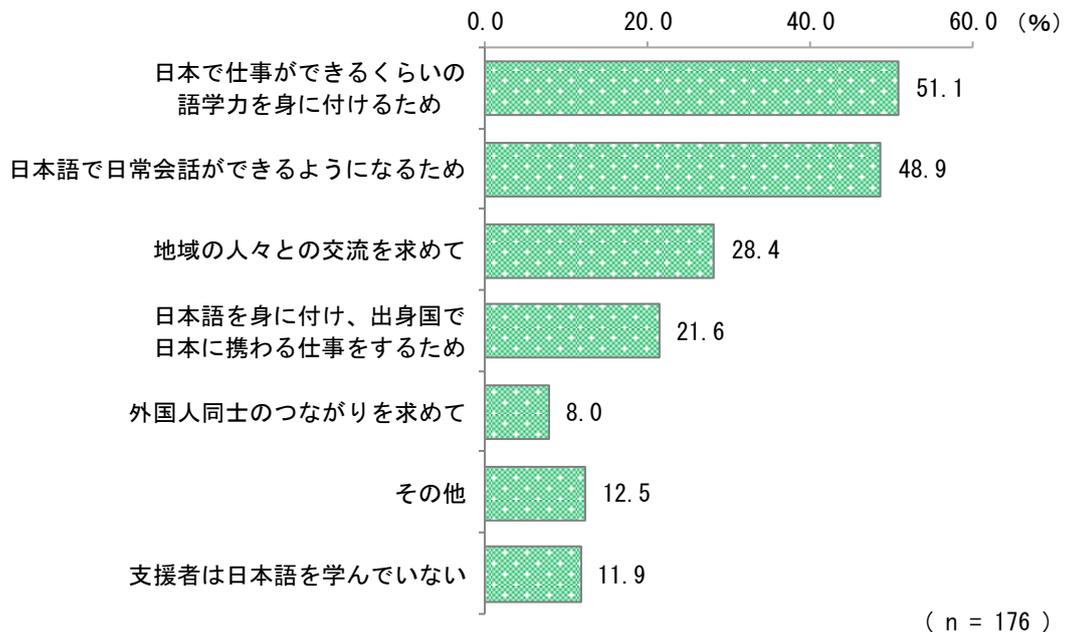
「パート・アルバイト」が43.8%で最も高く、次いで「学生」が39.8%、「主婦・主夫」が34.1%、「正社員」が31.3%となっている。



(9) 支援している方の日本語を学ぶ目的

Q6. 何を目的として日本語を学んでいると思いますか。(複数選択可)

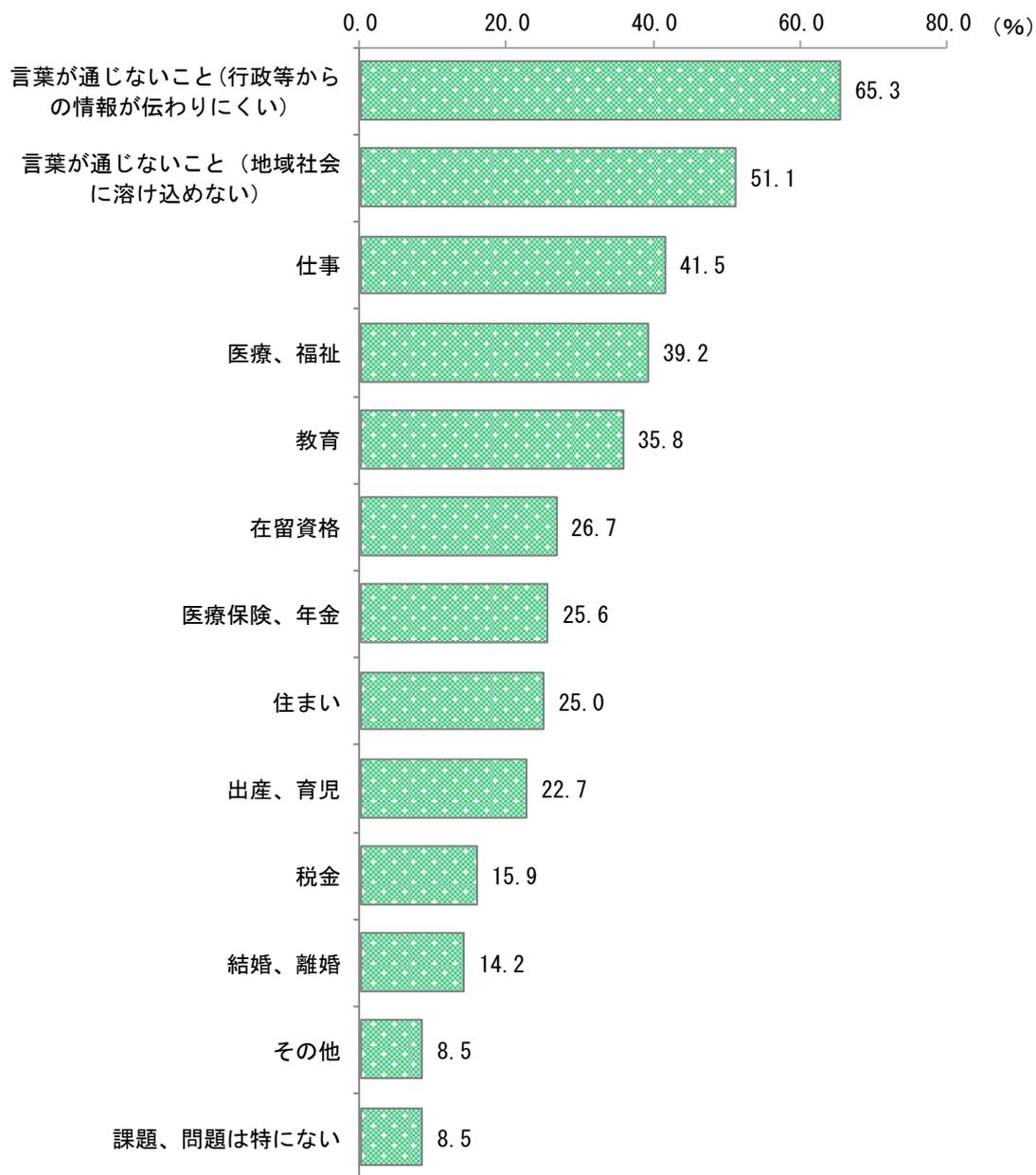
「日本で仕事ができるくらいの語学力を身に付けるため」が51.1%で最も高く、次いで「日本語で日常会話ができるようになるため」が48.9%、「地域の人々との交流を求めて」が28.4%、「日本語を身に付け、出身国で日本に携わる仕事をするため」が21.6%となっている。



(10) 支援している方の生活で困っていること・不安に思うこと

Q7. 日本の生活で困っていることや、不安に思っていることは、どのようなことだと思いますか。
(複数選択可)

「言葉が通じないこと(行政等からの情報が伝わりにくい)」が65.3%で最も高く、次いで「言葉が通じないこと(地域社会に受け入れられない)」が51.1%、「仕事」が41.5%、「医療、福祉」が39.2%、「教育」が35.8%と続いている。

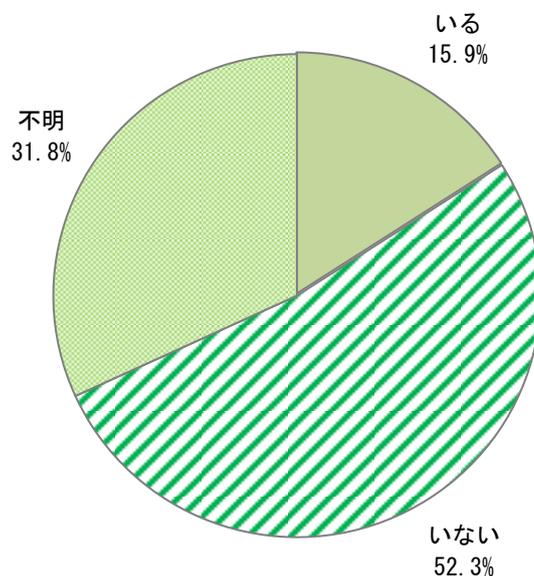


(n = 176)

(11) 支援している方（家族を含む）の不就学者の有無

Q 8. 支援している外国人（ご家族も含め）の中に、児童・生徒で不就学状況にある方はいますか。
（1つ選択）

「いる」が15.9%、「いない」が52.3%、「不明」が31.8%となっている。

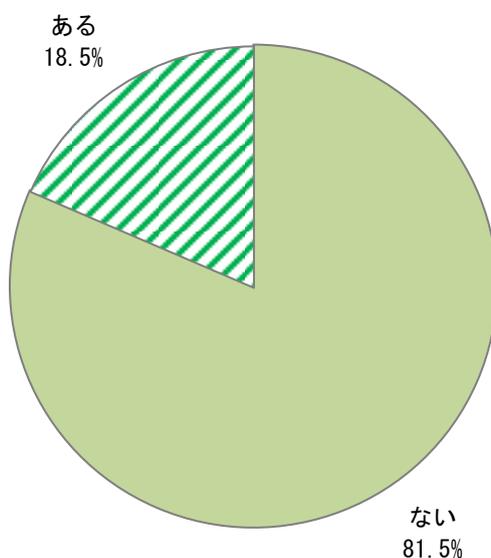


(n = 176)

(12) 外国人と日本人との交流促進のための取り組みの有無

Q 9. 日本語が不自由な外国人住民と日本人との交流を促進するきっかけづくりとして行っている取り組みはありますか。また、あると答えた方は、どのような取り組みを行っていますか。
（1つ選択）（例：祭り等のイベント、清掃活動、医療等の相談会等）

「ない」が81.5%となっている。

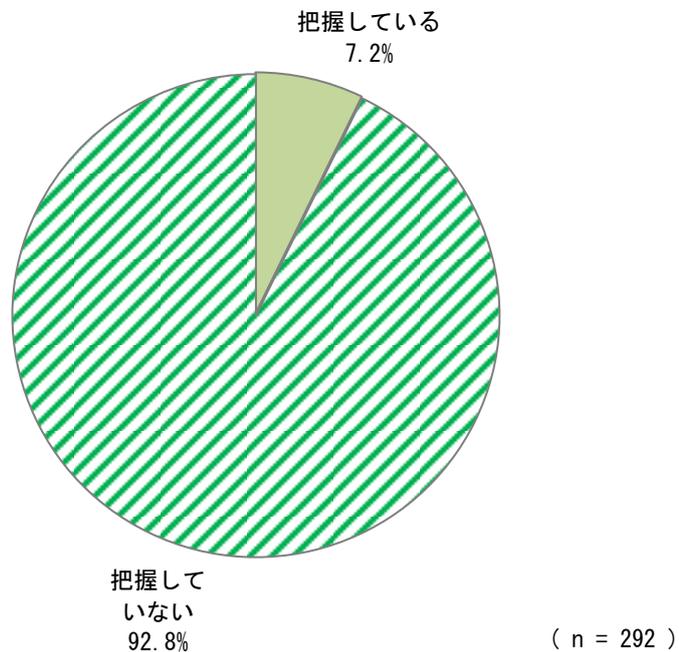


(n = 292)

(13) 外国人住民と地域をつなぐキーパーソンの把握

Q10. 外国人住民と地域を繋ぐ、出身国別（言語別）の外国人キーパーソンを把握していますか。
把握していると答えた方は、その方の国籍を教えてください。（1つ選択）

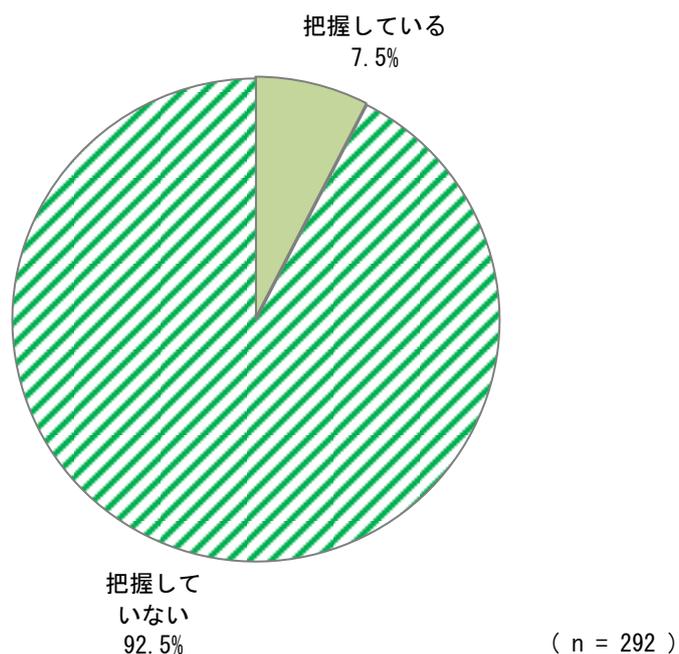
「把握していない」が92.8%となっている。



(14) 外国人コミュニティの把握

Q11. 外国人住民と地域を繋ぐ、出身国別（言語別）の外国人コミュニティを把握していますか。
把握していると答えた方は、その国名またはコミュニティ名を教えてください。（1つ選択）

「把握していない」が92.5%となっている。

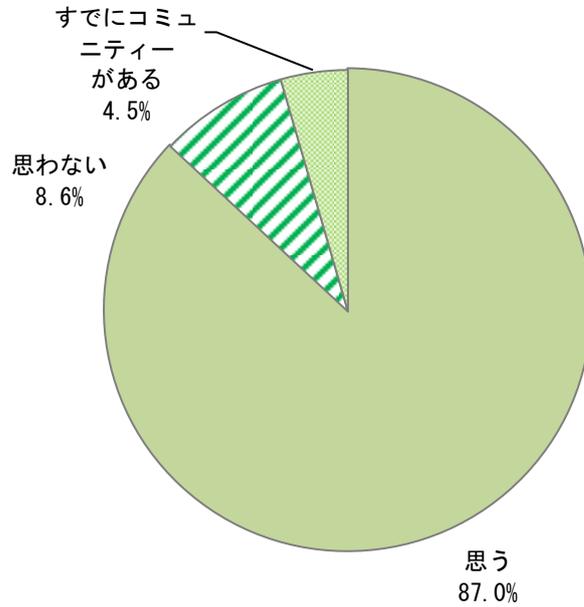


(15) 外国人コミュニティが地域にあったら良いと思うか

Q12. 外国人住民と地域を繋ぐ、出身国別（言語別）の外国人コミュニティが地域にあったら良いと思いますか。（1つ選択）

「思う」が87.0%となっている。

一方、「すでにコミュニティがある」が4.5%となっている。

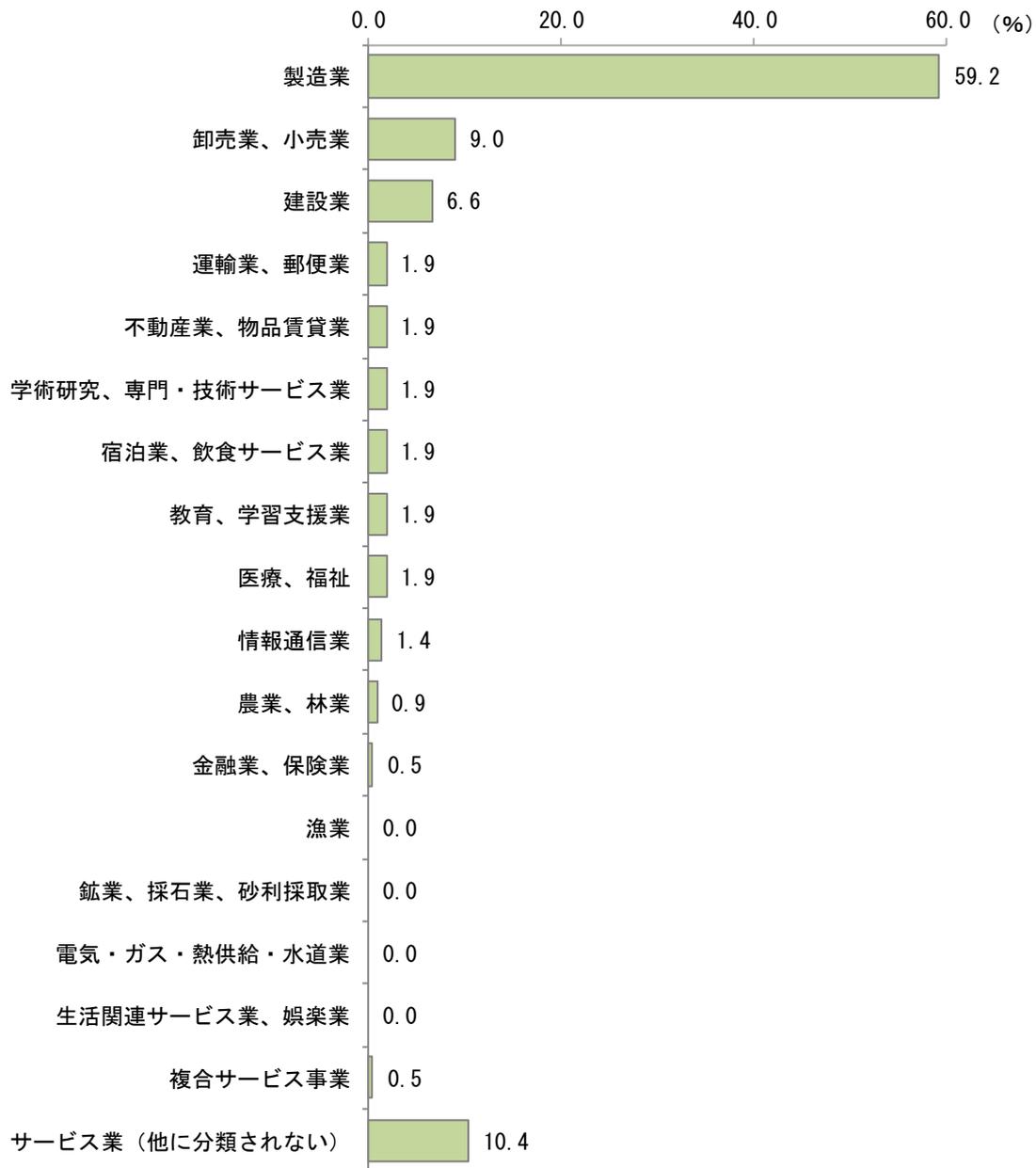


(n = 292)

4 企業等向け調査

(1) 業種

「製造業」が59.2%で最も高くなっている。

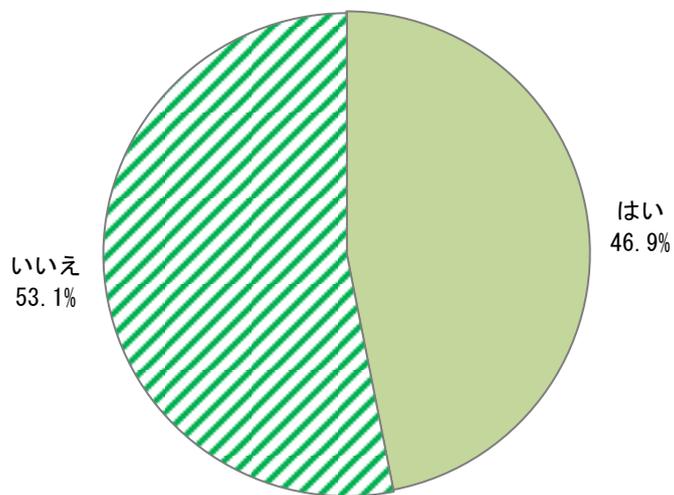


(n = 211)

(2) 外国人の雇用の有無・人数

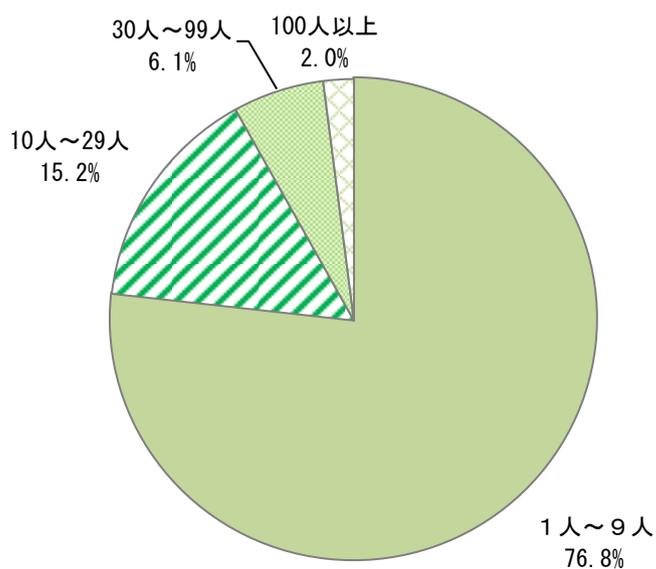
Q1-1. 貴社は現在、外国人(特別永住者は除く)を雇用していますか。
雇用している場合は、人数を教えてください。(1つ選択)

「はい」が46.9%、「いいえ」が53.1%となっている。



(n = 211)

「はい(雇用している)」外国人の人数は、「1人～9人」が76.8%、「10人～29人」が15.2%、「30人～99人」が6.1%となっている。

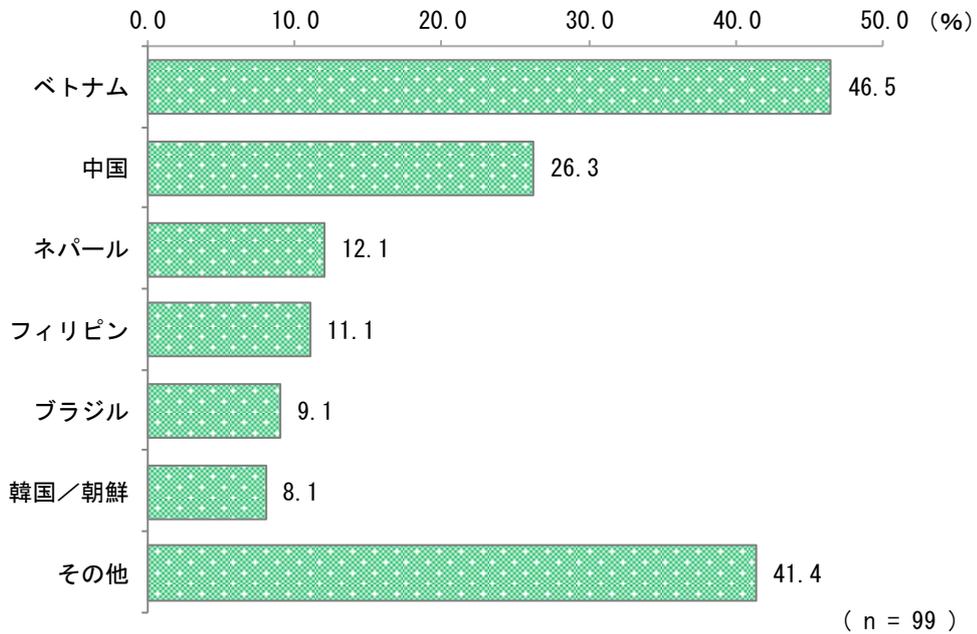


(n = 99)

(3) 雇用している方の国籍

Q1-2. 雇用している外国人の方はどこの国の方が多いですか。(複数選択可)

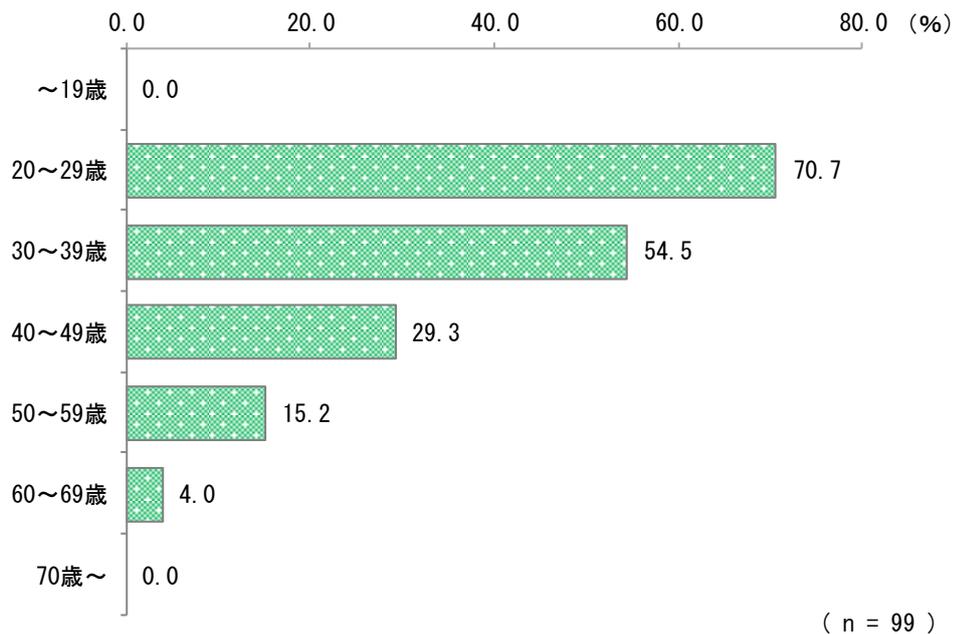
「ベトナム」が46.5%で最も高く、次いで「中国」が26.3%、「ネパール」が12.1%、「フィリピン」が11.1%となっている。



(4) 雇用している方の年齢

Q1-3. 雇用している外国人の方の年齢を教えてください。(複数選択可)

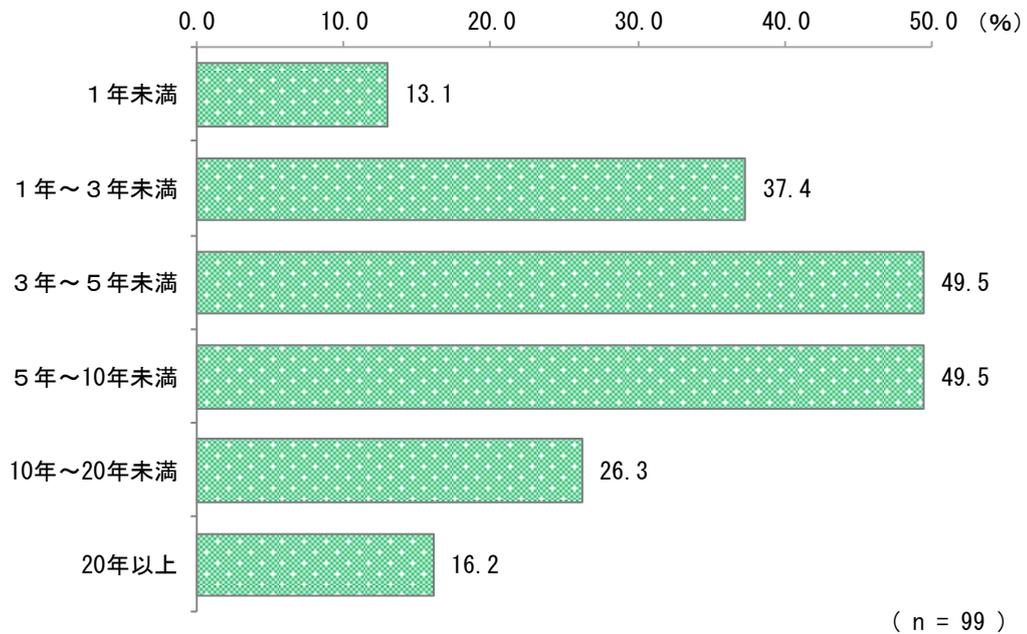
「20～29歳」が70.7%で最も高く、次いで「30～39歳」が54.5%、「40～49歳」が29.3%、「50～59歳」が15.2%と続いている。



(5) 雇用している方の居住年数

Q1-4. 雇用している外国人の方はどのくらい日本に住んでいますか。(複数選択可)

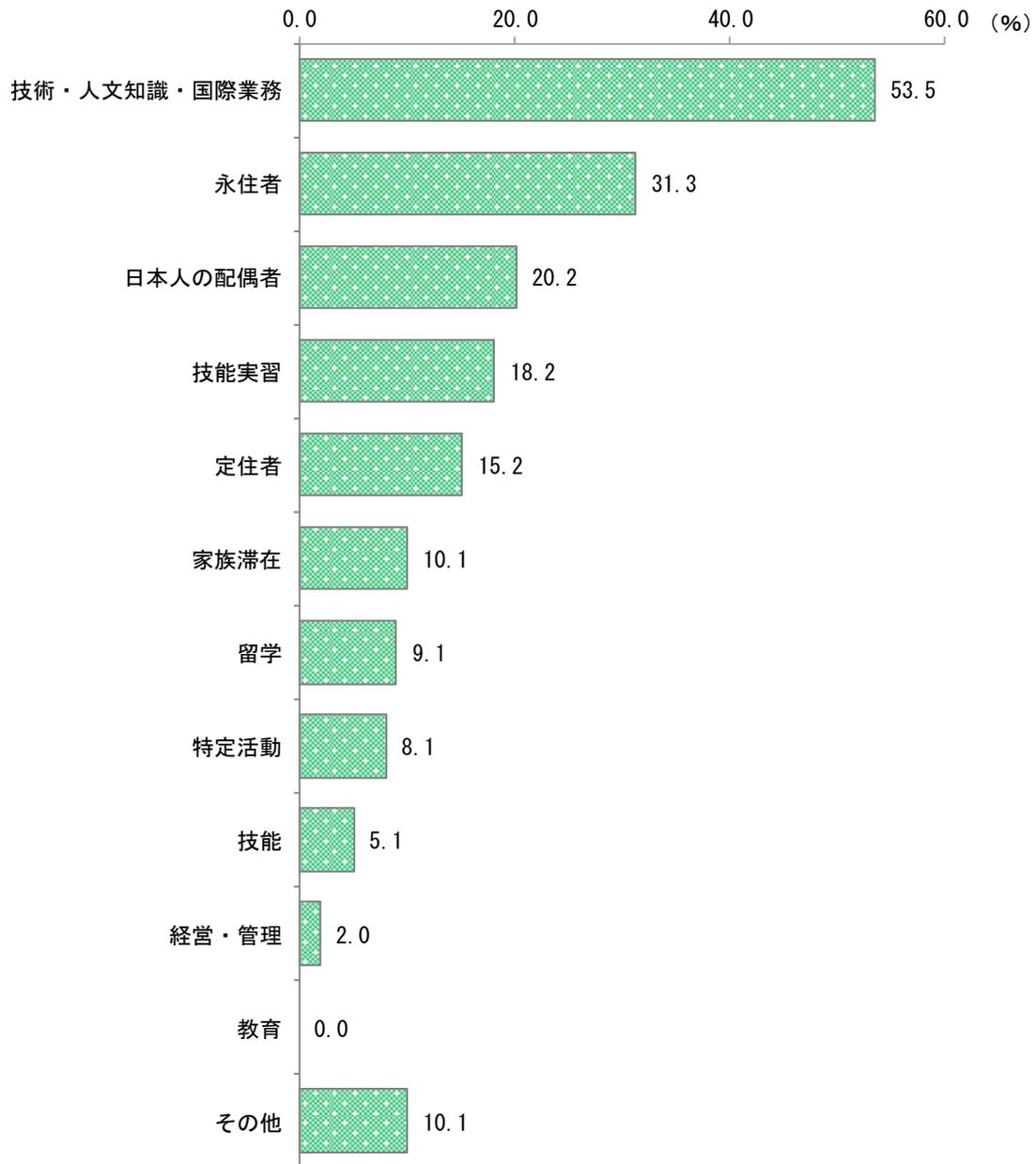
「3年～5年未満」及び「5年～10年未満」がともに49.5%で最も高く、次いで「1年～3年未満」が37.4%、「10年～20年未満」が26.3%、「20年以上」が16.2%、「1年未満」が13.1%となっている。



(6) 雇用している方の在留資格

Q 1 - 5. 雇用している外国人の方の在留資格は何ですか。(複数選択可)

「技術・人文知識・国際業務」が53.5%で最も高く、次いで「永住者」が31.3%、「日本人の配偶者」が20.2%、「技能実習」が18.2%、「定住者」が15.2%と続いている。

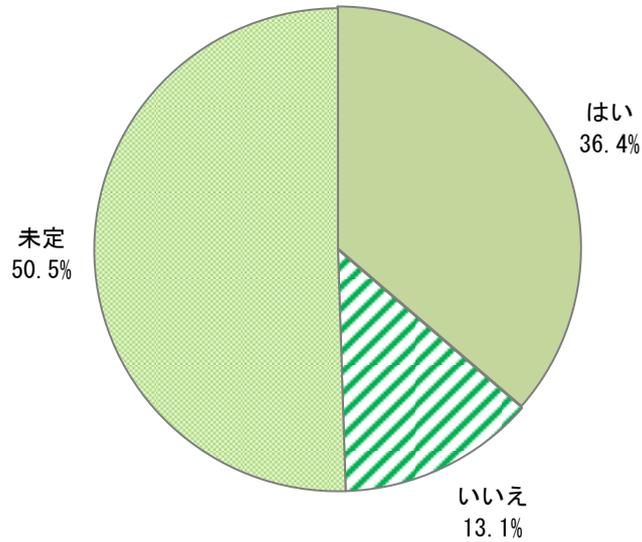


(n = 99)

(7) 今後、外国人の雇用を増やしたいか（既に雇用している）

Q2. 今後、外国人の雇用を増やしたいですか？（1つ選択）

「はい」が36.4%、「いいえ」が13.1%、「未定」が50.5%となっている。

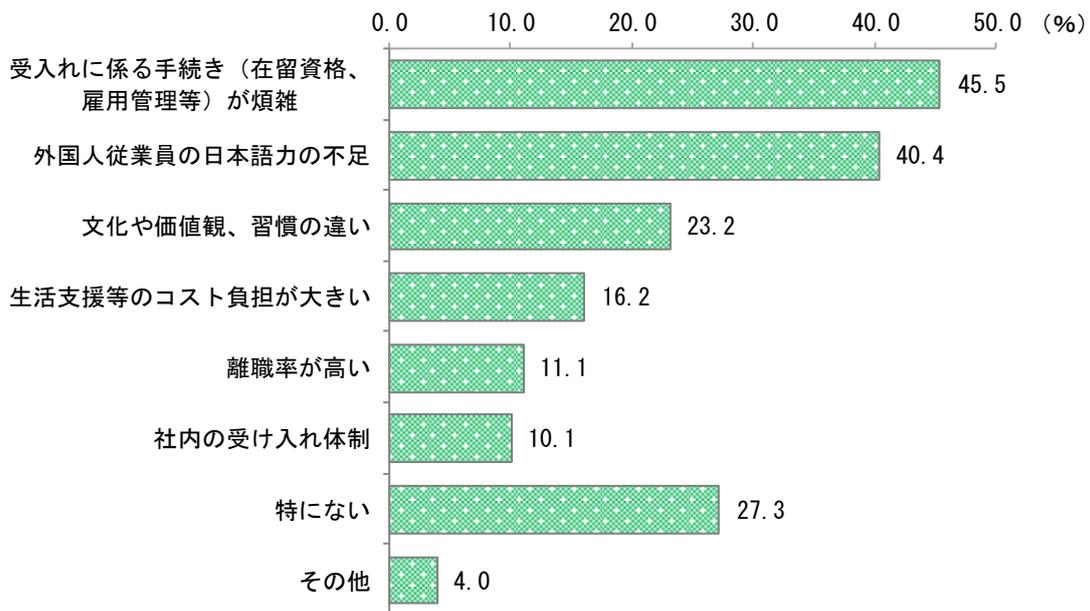


(n = 99)

(8) 外国人の雇用に関して、課題や困っていること

Q3. 外国人の雇用に関して、課題や困っていることはありますか？（複数選択可）

「受入に係る手続き（在留資格、雇用管理等）が煩雑」が45.5%で最も高く、次いで「外国人従業員の日本語力の不足」が40.4%、「文化や価値観、習慣の違い」が23.2%となっている。一方、「特になし」が27.3%となっている。

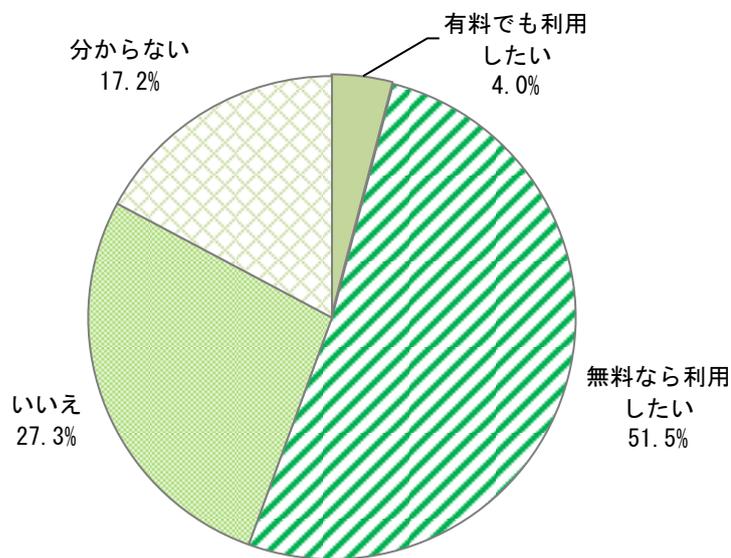


(n = 99)

(9) 外国人従業員を支援するサービスの利用意向

Q 4. 外国人従業員に対する日本語教室、生活支援の相談会、通訳サービス（オンラインでの対応も含む）があった場合、利用したいと思いますか？（1つ選択）

「無料なら利用したい」が51.5%で最も高く、次いで「いいえ」が27.3%となっている。

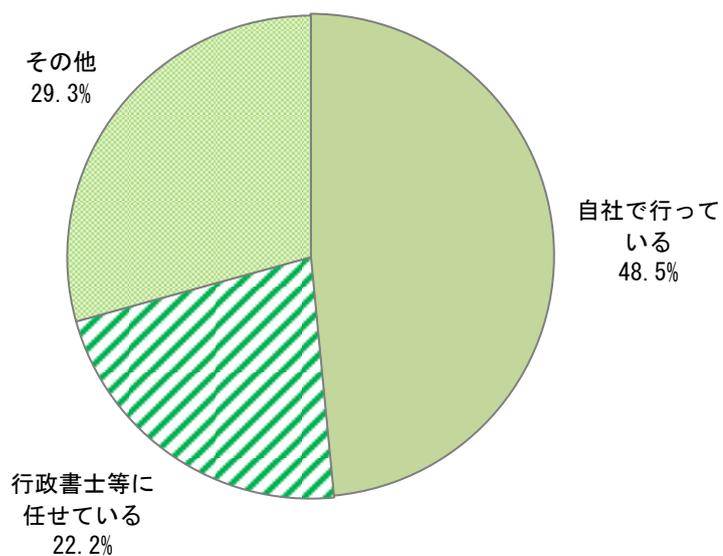


(n = 99)

(10) ビザの切り替え

Q 5. ビザの切り替え手続きはどのように行っていますか。（1つ選択）

「自社で行っている」が48.5%、「行政書士等に任せている」が22.2%となっている。

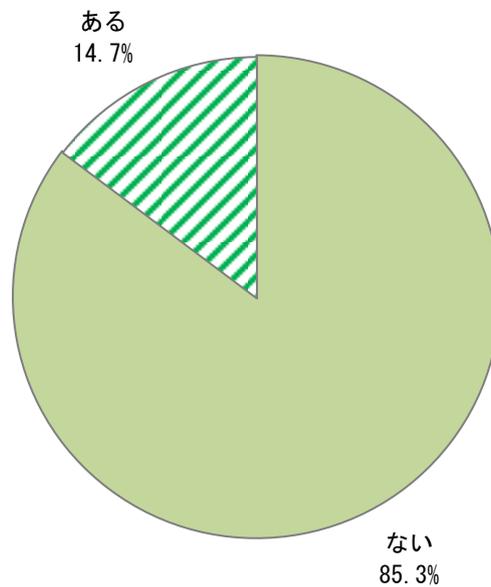


(n = 99)

(11) 外国人と日本人との交流促進のための取り組みの有無

Q 7. 日本語が不自由な外国人材と日本人との交流を促進するきっかけづくりとして行っている取り組みはありますか。また、あると答えた方は、どのような取り組みを行っていますか。
(1つ選択) (例: 祭り等のイベント、清掃活動、医療等の相談会等)

「ない」が 85.3%となっている。

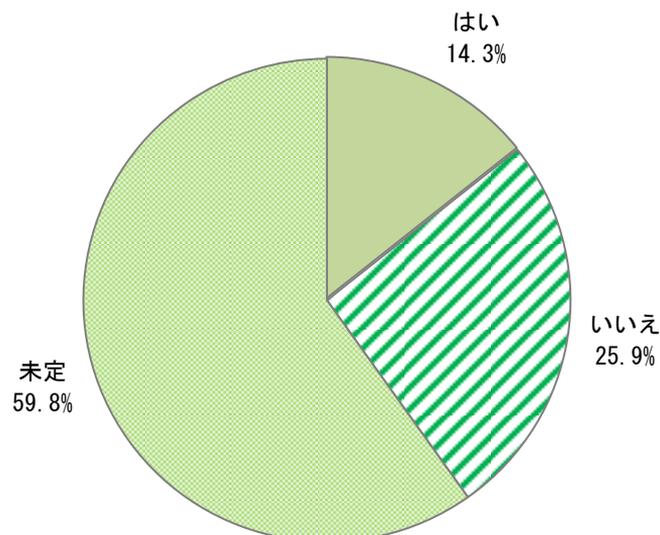


(n = 211)

(12) 今後、外国人の雇用をしたいか (現在、雇用していない)

Q 8-1. 今後、外国人を雇用したいと思いますか? (1つ選択)

「はい」が 14.3%、「いいえ」が 25.9%、「未定」が 59.8%となっている。

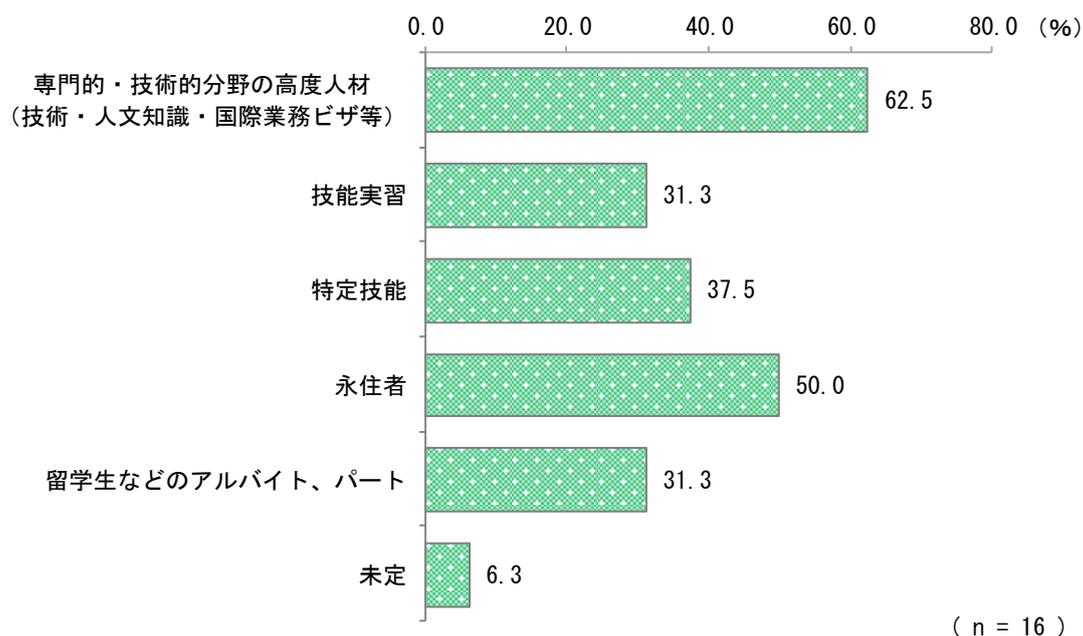


(n = 112)

(13) 求める人材

Q8-2. どのような人材の雇用を希望していますか？（複数選択可）

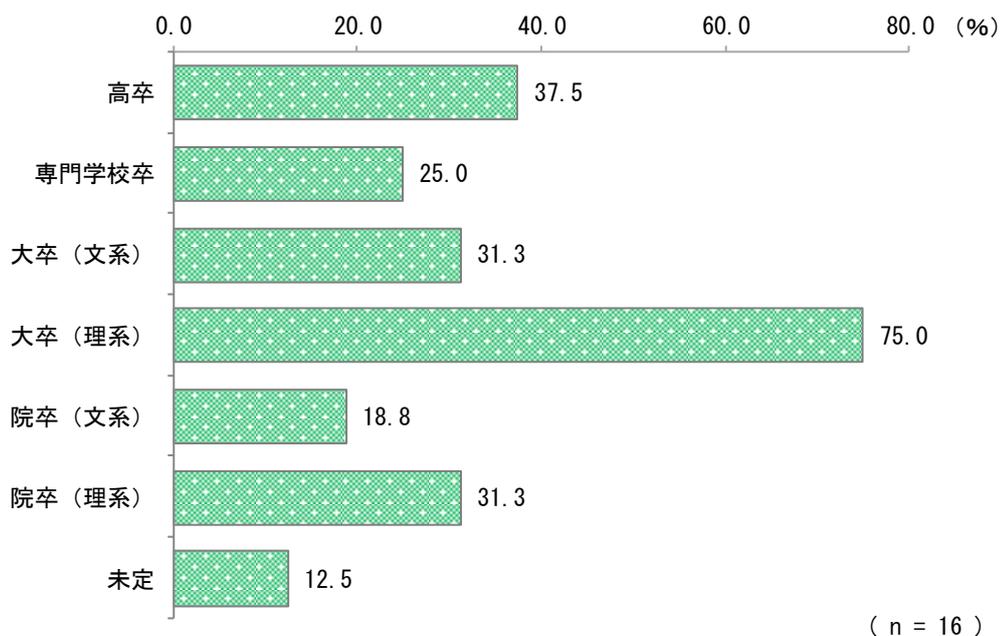
求める人材は、回答者数が少ないため、参考として掲載する。



(14) 外国人留学生に求める人材の学歴

Q8-3. 外国人留学生を採用するとしたら、どのような学歴の人材を希望しますか？（複数選択可）

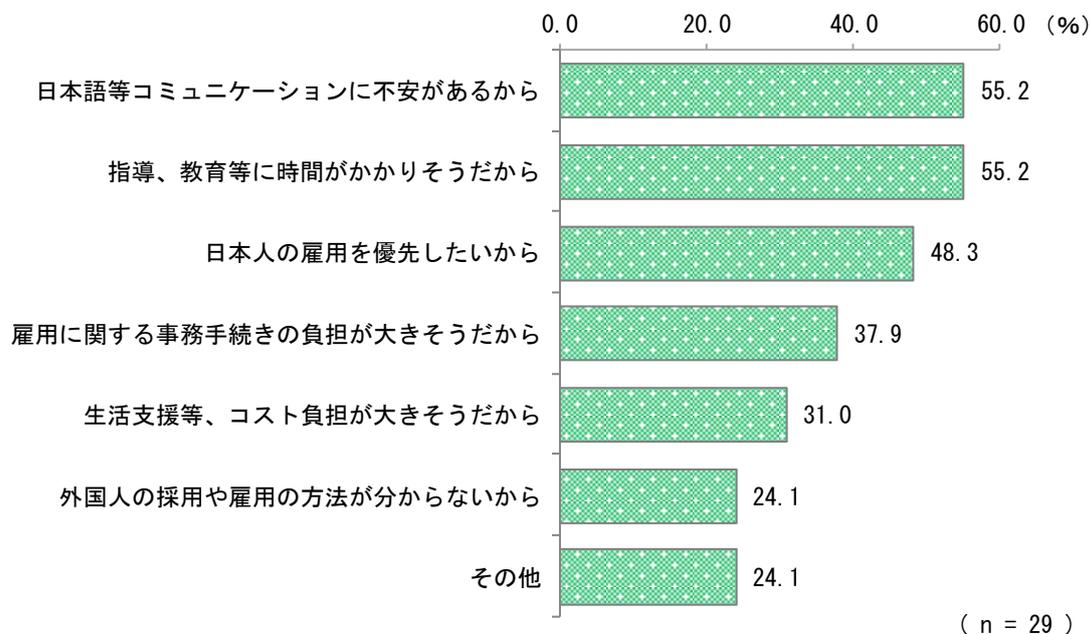
外国人留学生に求める人材の学歴は、回答者数が少ないため、参考として掲載する。



(15) 今後、外国人を雇用しないと考える理由

Q8-4. そのように考える理由はなぜですか？（複数選択可）

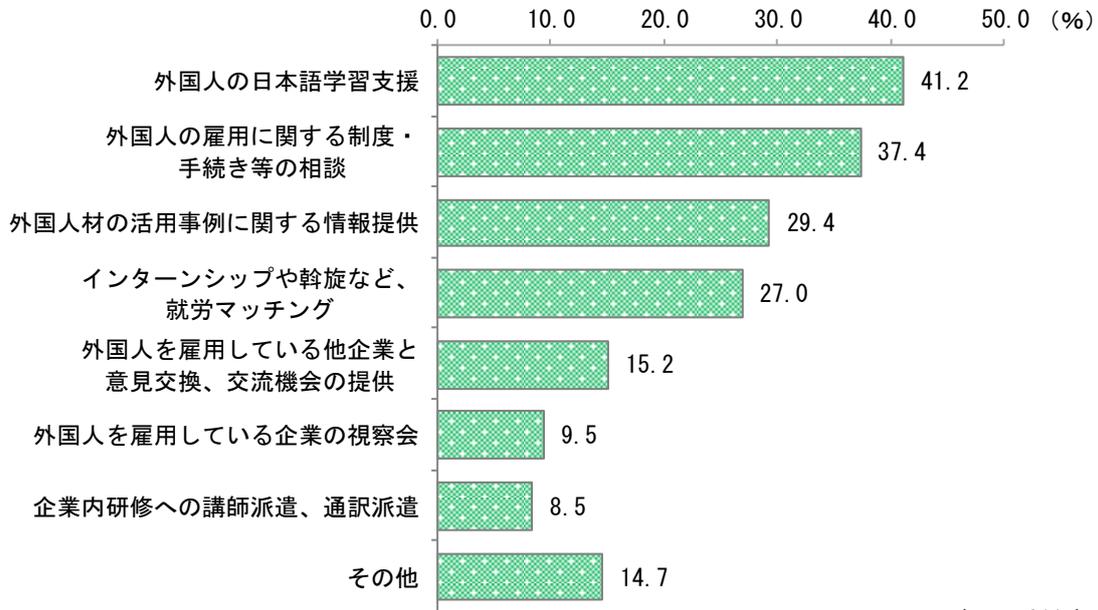
「日本語等コミュニケーションに不安があるから」及び「指導、教育等に時間がかかりそうだから」がともに55.2%で最も高くなっている。次いで「日本人の雇用を優先したいから」が48.3%、「雇用に関する事務手続きの負担が大きそうだから」が37.9%、「生活支援等、コスト負担が大きそうだから」が31.0%、「外国人の採用や雇用の方法が分からないから」が24.1%となっている。



(16) 外国人の雇用に関して、仲介する団体に期待すること

Q9. 外国人の雇用に関して、仲介する団体にどのようなことを期待しますか。(複数選択可)

「外国人の日本語学習支援」が41.2%で最も高く、「外国人の雇用に関する制度・手続き等の相談」が37.4%、「外国人材の活用事例に関する情報提供」が29.4%、「インターンシップや斡旋など、就労マッチング」が27.0%と続いている。

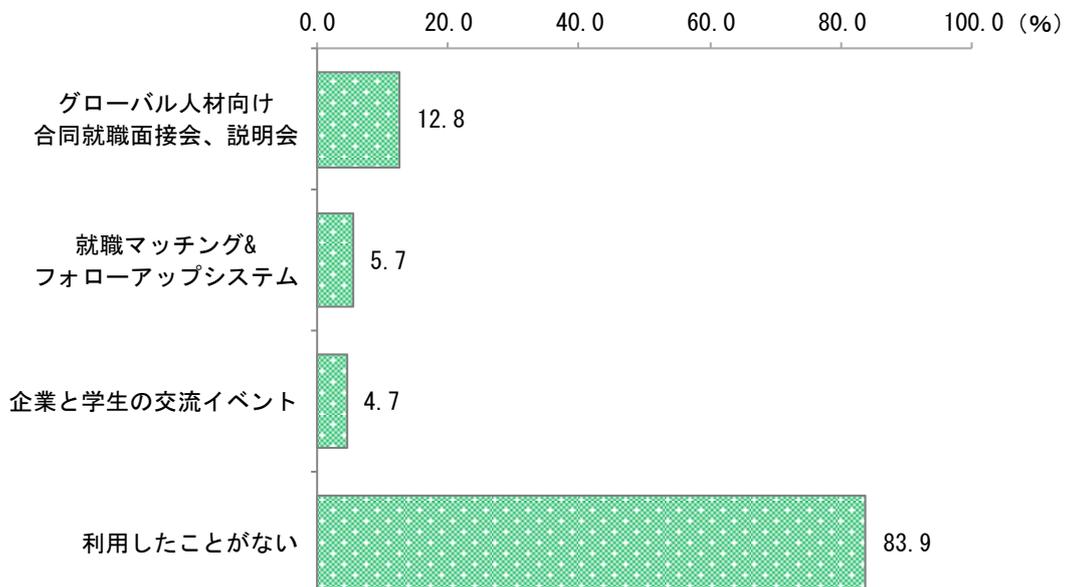


(n = 211)

(17) GGSが提供するメニューの利用

Q10. グローバル人材育成センター埼玉 (GGS) は、グローバル人材の採用をお考えの企業の皆さまに向けた支援メニューを無料で提供していますが、ご利用されたことのある支援メニューはありますか。(複数選択可)

「利用したことがない」が83.9%となっている。

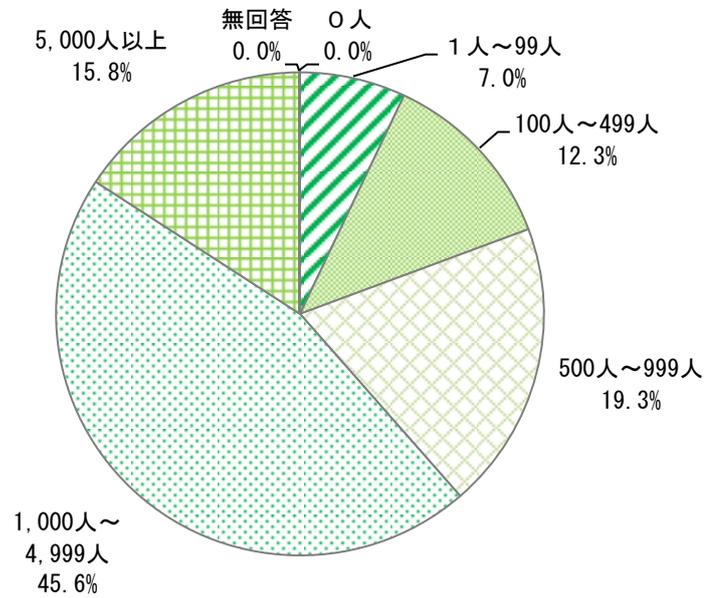


(n = 211)

5 市町村（国際施策担当者）向け調査

（1）在住外国人数

「1,000人～4,999人」が45.6%で最も高く、次いで「500人～999人」が19.3%、「5,000人以上」が15.8%、「100人～499人」が12.3%となっている。

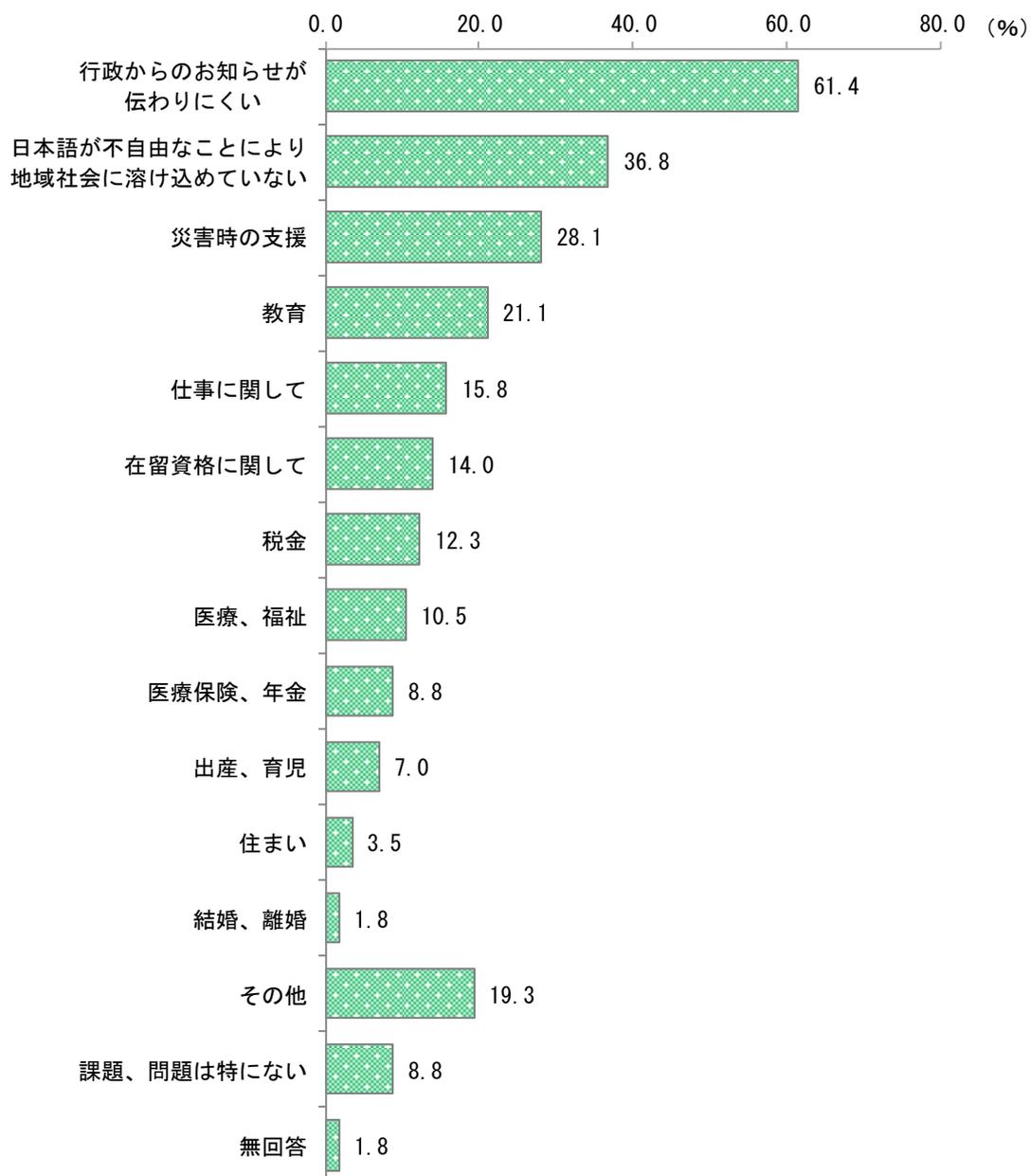


(n = 57)

(2) 外国人住民の地域生活における課題・問題

QA 1. 外国人住民の地域生活における課題・問題はありますか。(複数選択可)

「行政からのお知らせが伝わりにくい」が61.4%で最も高く、次いで「日本語が不自由なことにより地域社会に溶け込めていない」が36.8%、「災害時の支援」が28.1%、「教育」が21.1%と続いている。

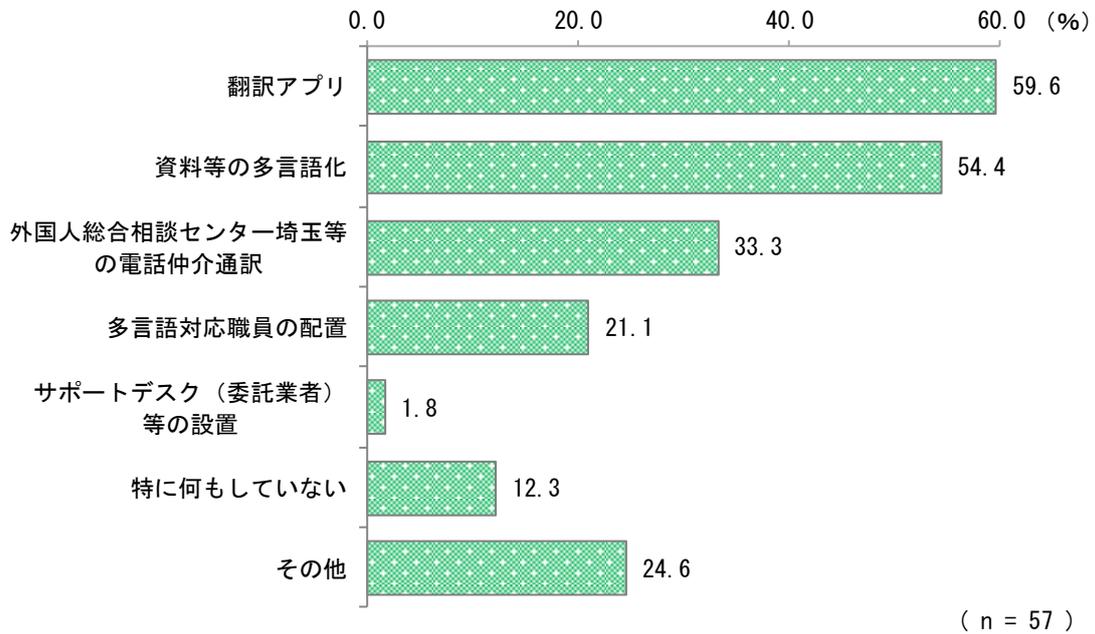


(n = 57)

(3) 外国人住民に対する窓口対応

QA 2. 外国人住民が窓口を訪れた際の対応方法を教えてください。(複数選択可)

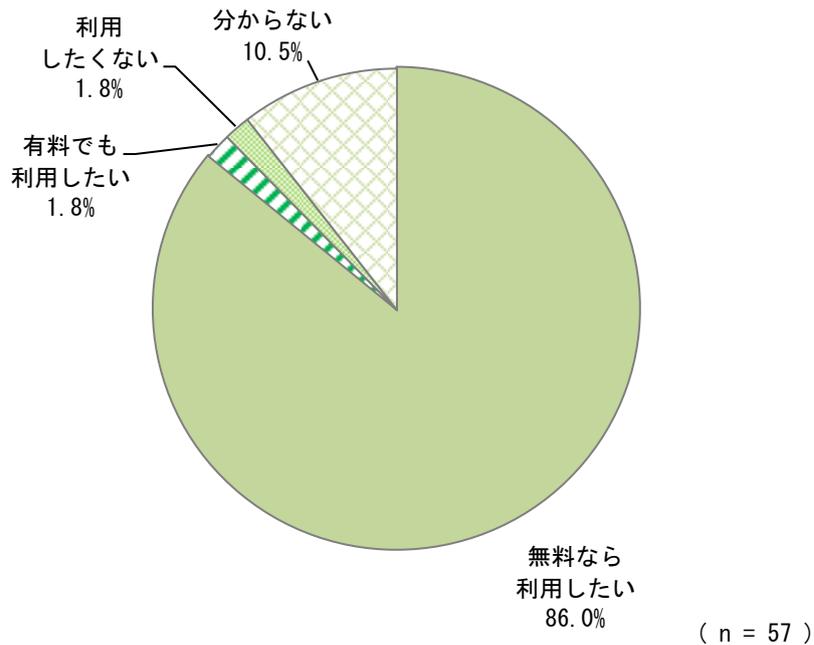
「翻訳アプリ」が59.6%で最も高く、次いで「資料等の多言語化」が54.4%、「外国人総合相談センター埼玉等の電話仲介通訳」が33.3%と続いている。



(4) オンライン通訳サービスの利用意向

QA 3. オンラインでの通訳サービスがあったら利用したいと思いますか。(1つ選択)

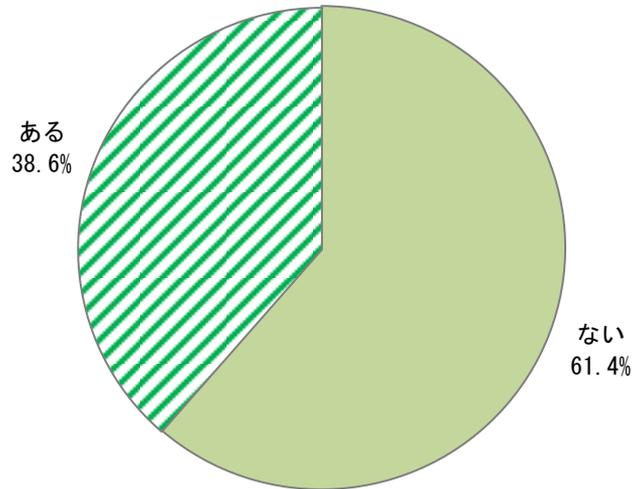
「無料なら利用したい」が86.0%となっている。



(5) 外国人と日本人との交流促進のための取り組みの有無

QA 4. 日本語が不自由な外国人住民と日本人との交流を促進するきっかけづくりとして行っている取り組みはありますか。また、あると答えた方は、どのような取り組みを行っていますか。
(1つ選択) (例: 祭り等のイベント、清掃活動、医療等の相談会 等)

「ない」が61.4%、「ある」が38.6%となっている。

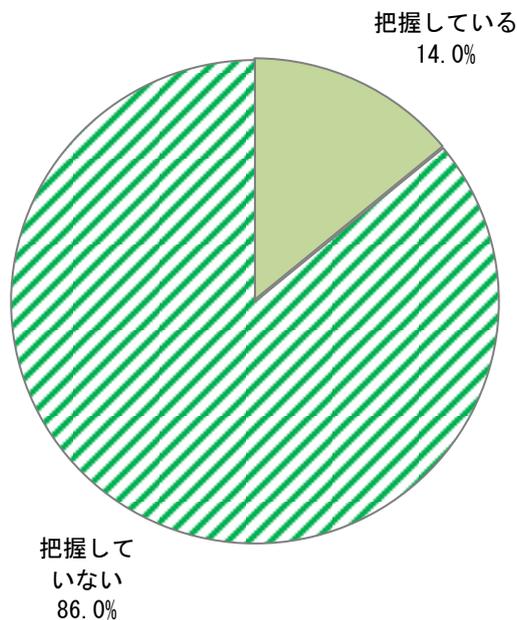


(n = 57)

(6) 外国人住民と市町村をつなぐキーパーソンの把握

QA 5. 外国人住民（コミュニティ含む）と市町村を繋ぐ、出身国別（言語別）の外国出身のキーパーソンを把握していますか。把握している場合は、その方の国籍を教えてください。
(1つ選択)

「把握していない」が86.0%となっている。

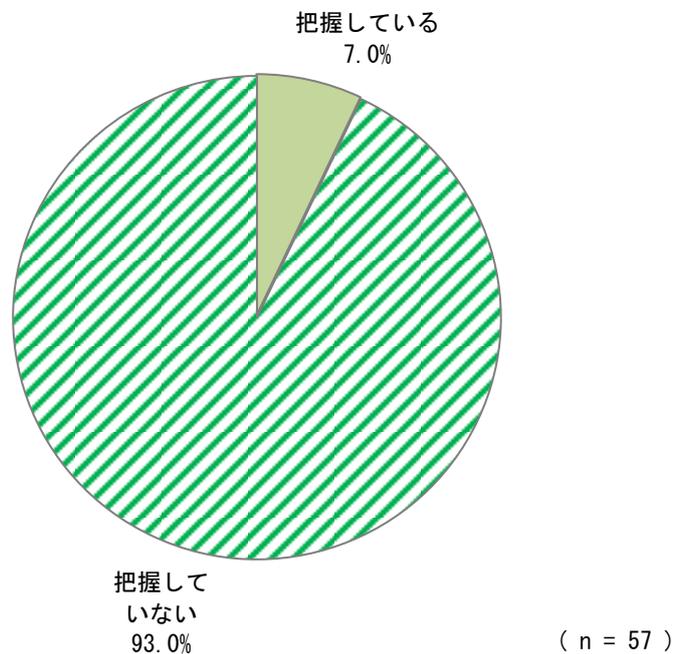


(n = 57)

(7) 外国人コミュニティの把握

QA6. 外国人住民と市町村を繋ぐ、出身国別（言語別）の外国人コミュニティを把握していますか。把握している場合は、その国名またはコミュニティ名を教えてください。（1つ選択）

「把握していない」が93.0%となっている。

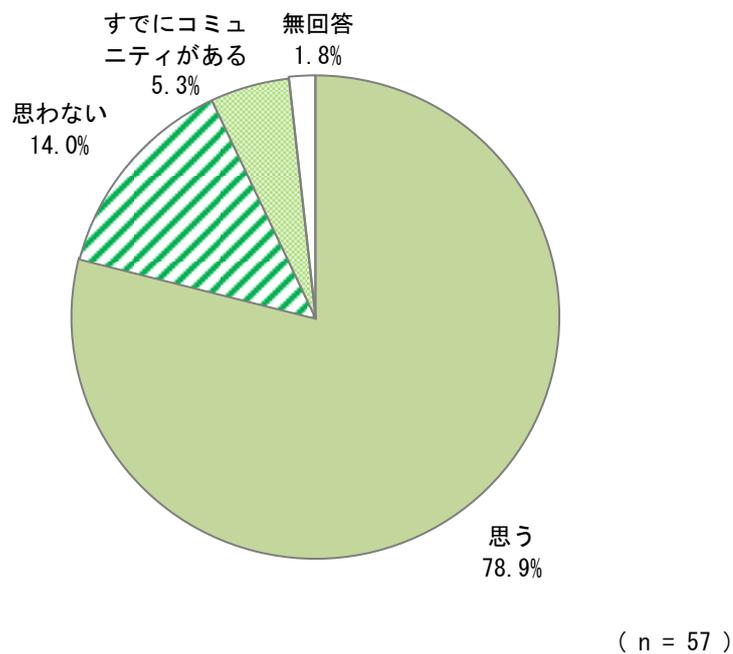


(8) 外国人コミュニティが地域にあったら良いと思うか

QA7. 外国人住民と市町村を繋ぐ、出身国別（言語別）の外国人コミュニティが地域にあったら良いと思いますか。（1つ選択）

「思う」が78.9%となっている。

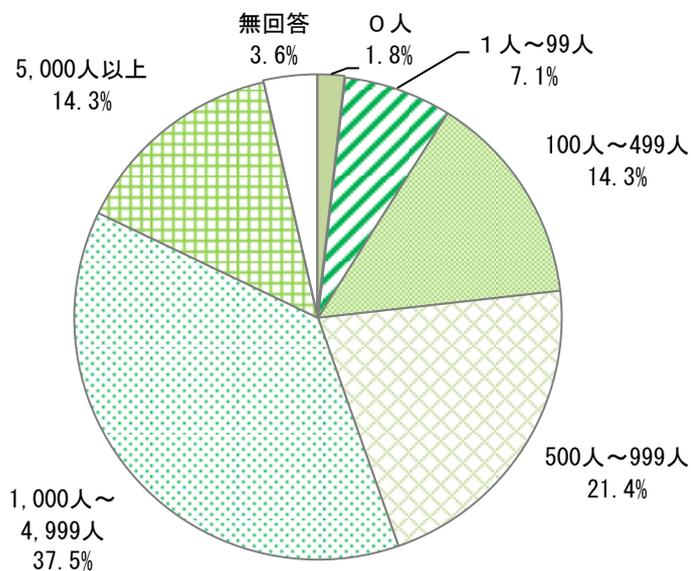
一方、「すでにコミュニティがある」が5.3%となっている。



6 市町村（教育委員会担当者）向け調査

(1) 在住外国人数

「1,000人～4,999人」が37.5%で最も高く、次いで「500人～999人」が21.4%、「100人～499人」及び「5,000人以上」がともに14.3%となっている。



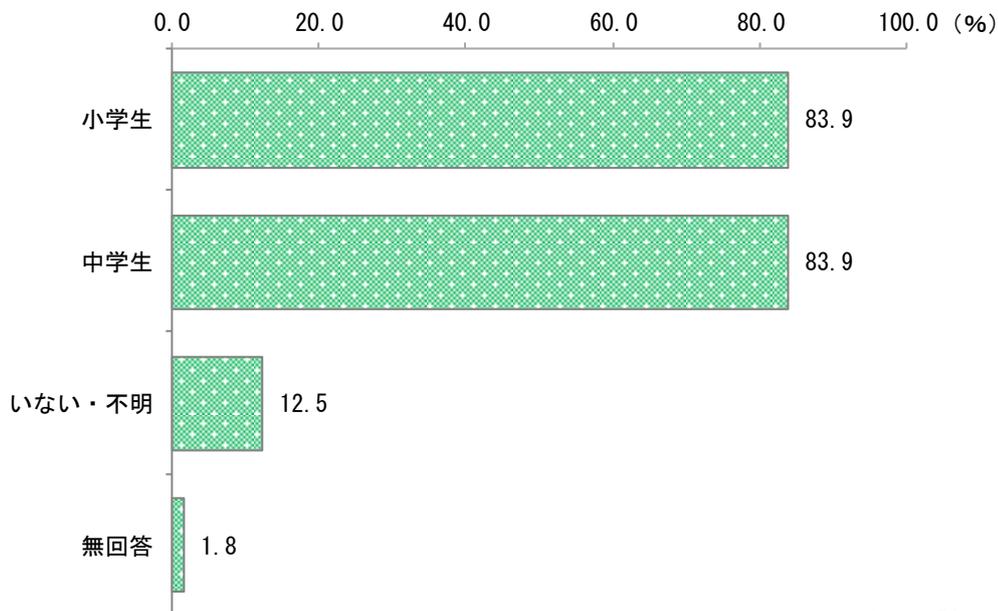
(n = 56)

(2) 外国語を母語とする児童・生徒の在籍の有無・人数

QB1-1. 外国語を母語とする児童・生徒は在籍していますか。

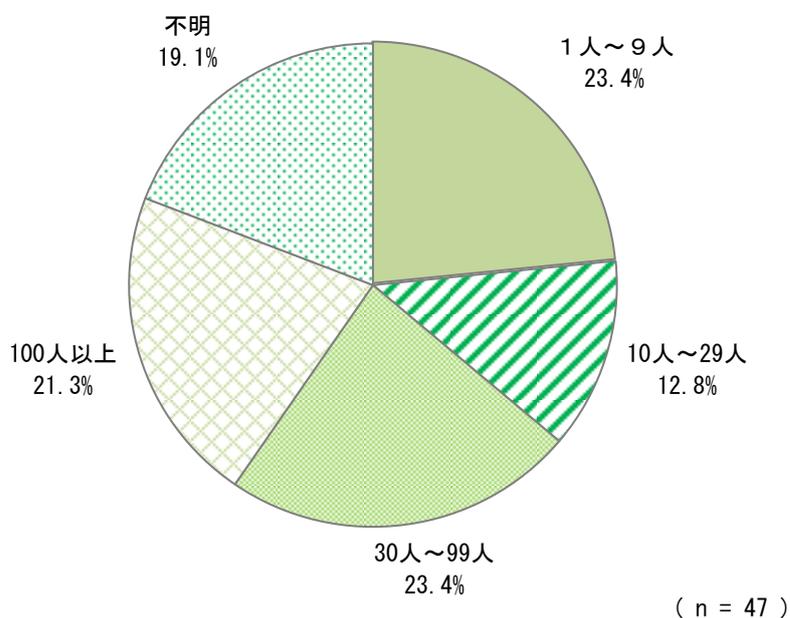
人数が分かる場合は、人数もお書きください。(複数選択可)

「小学生」及び「中学生」がともに83.9%となっている。

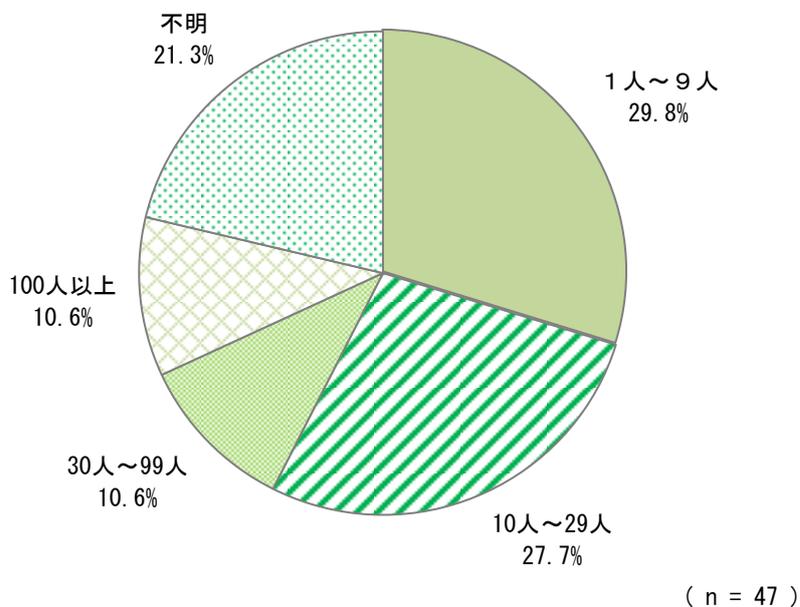


(n = 56)

「小学生」の人数は、「1人～9人」が23.4%、「10人～29人」が12.8%、「30人～99人」が23.4%、「100人以上」が21.3%となっている。



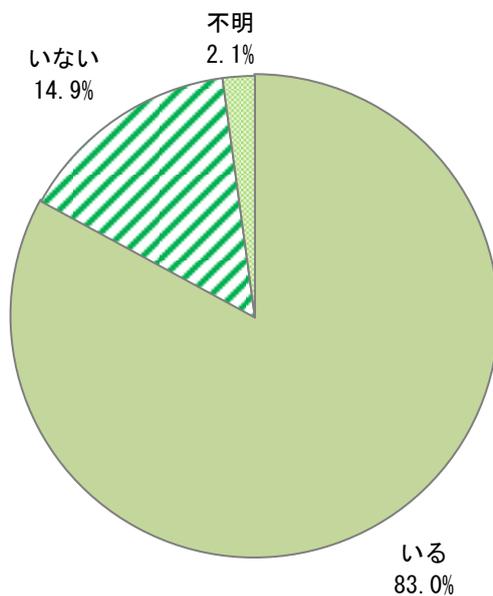
「中学生」の人数は、「1人～9人」が29.8%、「10人～29人」が27.7%、「30人～99人」及び「100人以上」がともに10.6%となっている。



(3) 日本語に不自由している児童・生徒の有無

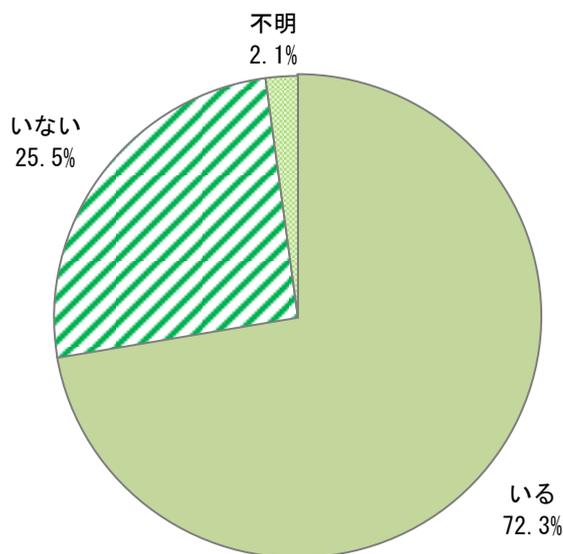
QB1-2. 学校生活に必要な日本語に不自由している（日本語指導が必要な）児童・生徒はいますか。（それぞれ1つずつ選択）

児童（小学生）について、「いる」が83.0%となっている。



(n = 47)

生徒（中学生）について、「いる」が72.3%となっている。

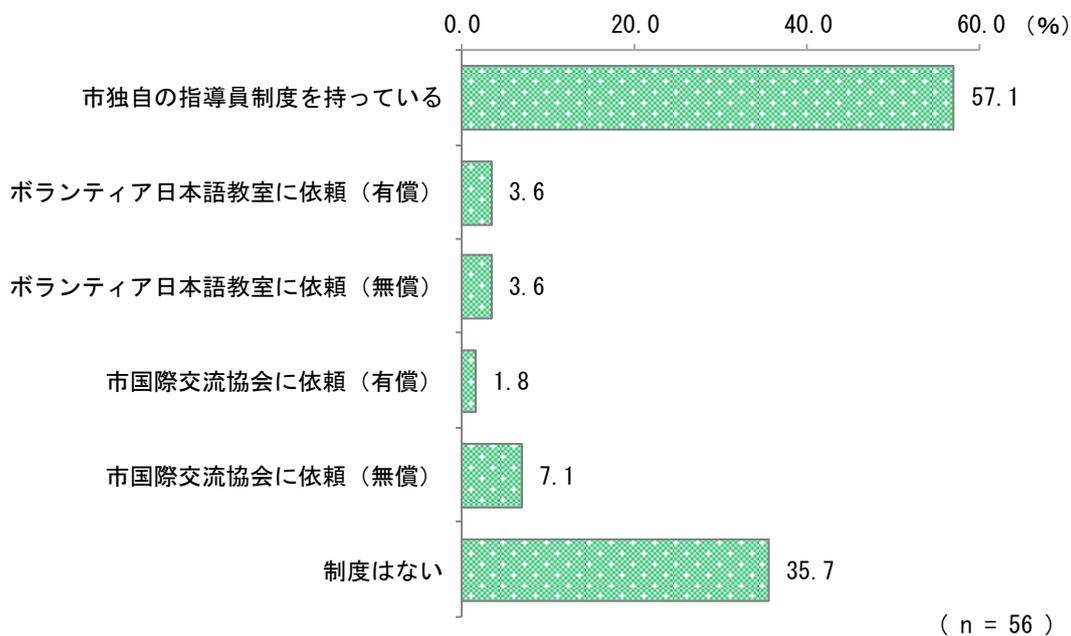


(n = 47)

(4) 日本語指導員制度の有無

QB2. 日本語指導員について制度がありますか。(複数選択可)

「市独自の指導員制度を持っている」が57.1%となっている。一方、「制度はない」が35.7%となっている。

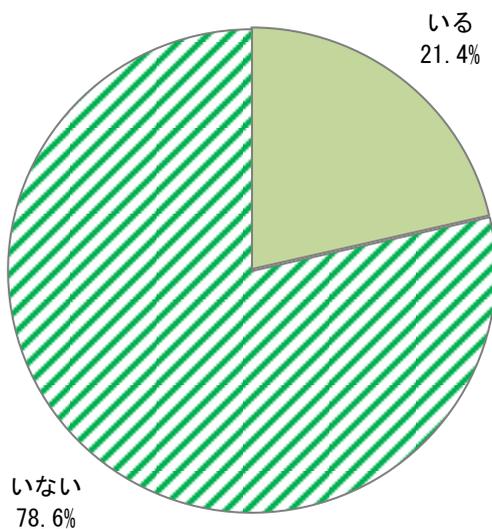


(5) 多言語でのサポートが可能な職員を配置の有無

QB3. 多言語でのサポートが可能な職員を配置していますか。

配置している場合は、言語を教えてください。(1つ選択)

「いない」が78.6%となっている。

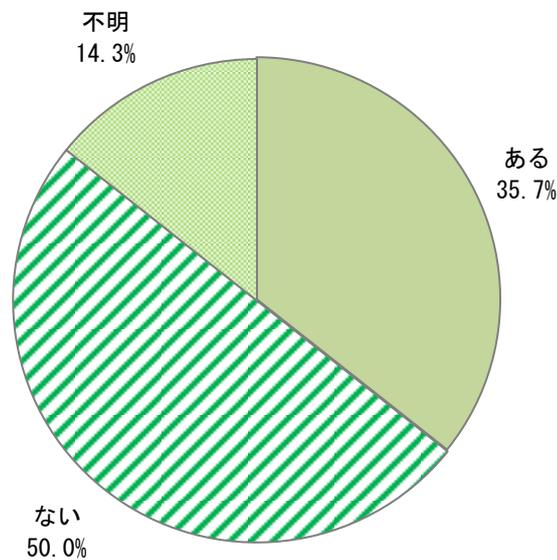


(n = 56)

(6) 通訳（オンライン通訳含む）利用の有無

QB 4. 通訳（オンライン通訳含む）を利用したことはありますか。（1つ選択）

「ある」が35.7%、「ない」が50.0%となっている。

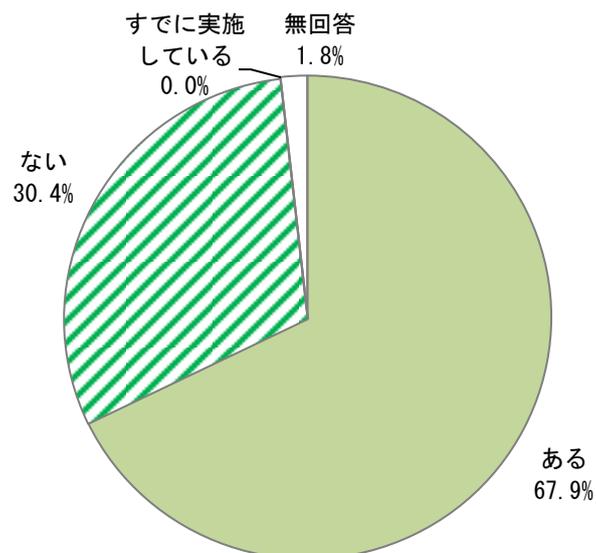


(n = 56)

(7) 「オンライン日本語教室」への興味

QB 5. 日本語指導が必要な外国人児童・生徒を対象とした「オンライン日本語教室」に興味がありますか。（1つ選択）

「ある」が67.9%、「ない」が30.4%。

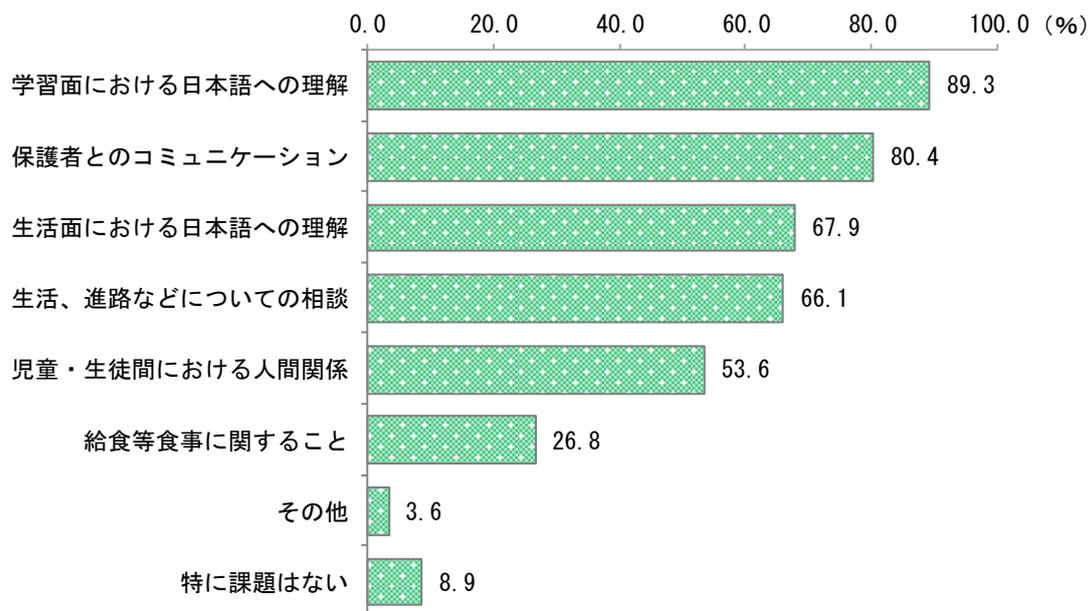


(n = 56)

(8) 学校等における外国人児童・生徒に関わる課題

QB6. 学校等において、外国人児童・生徒に関わる課題に、どのようなものがありますか。
(複数選択可)

「学習面における日本語への理解」が89.3%で最も高く、次いで「保護者とのコミュニケーション」が80.4%、「生活面における日本語への理解」が67.9%、「生活、進路などについての相談」が66.1%、「児童・生徒間における人間関係」が53.6%、「給食等食事に関すること」が26.8%となっている。

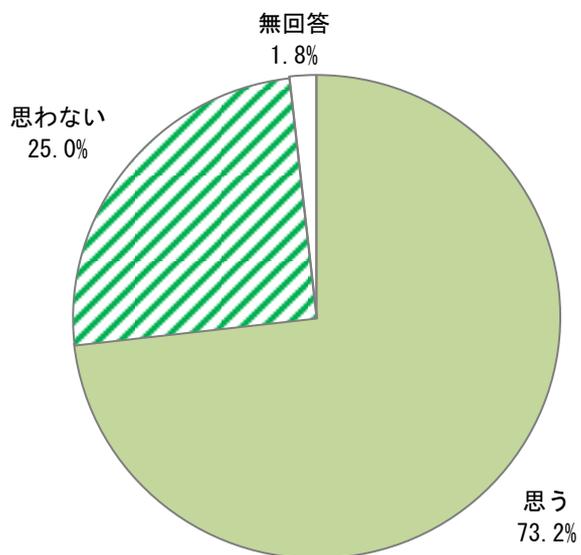


(n = 56)

(9) オンラインガイダンス等の利用意向

QB7. 教員、スクールカウンセラー等を対象に、外国人児童・生徒に必要な情報への理解促進を図る目的で、オンラインガイダンス等があったら参加したいと思いますか。
(1つ選択)

「思う」が73.2%となっている。

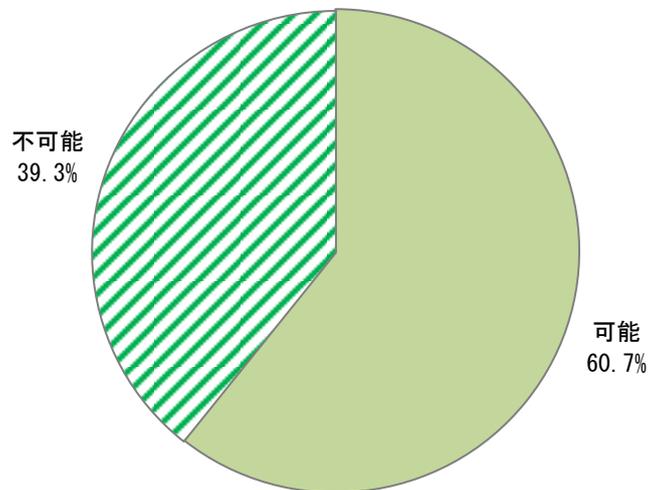


(n = 56)

(10) 母国で既卒の児童・生徒の受け入れ

QB8-1. 外国にルーツを持ち、母国で卒業している（既卒）の児童・生徒は、居住地の小中学校に在籍することが可能ですか。（1つ選択）

「可能」が60.7%、「不可能」が39.3%となっている。

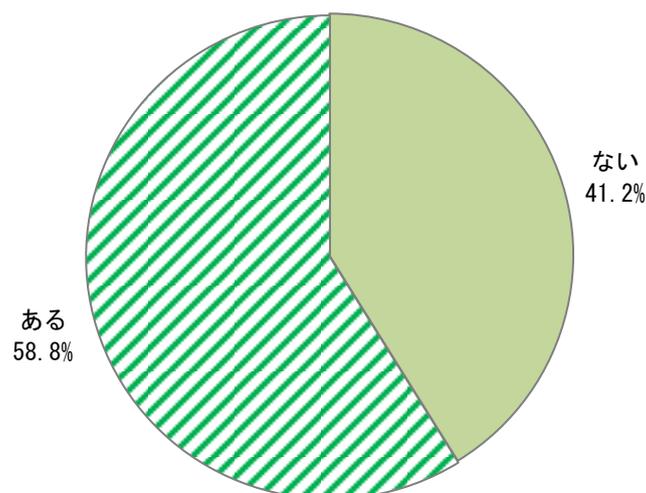


(n = 56)

(11) 受け入れ可能な場合の年齢制限の有無

QB8-2. 可能な場合、年齢に制限はありますか。（1つ選択）

「ない」が41.2%、「ある」が58.8%となっている。

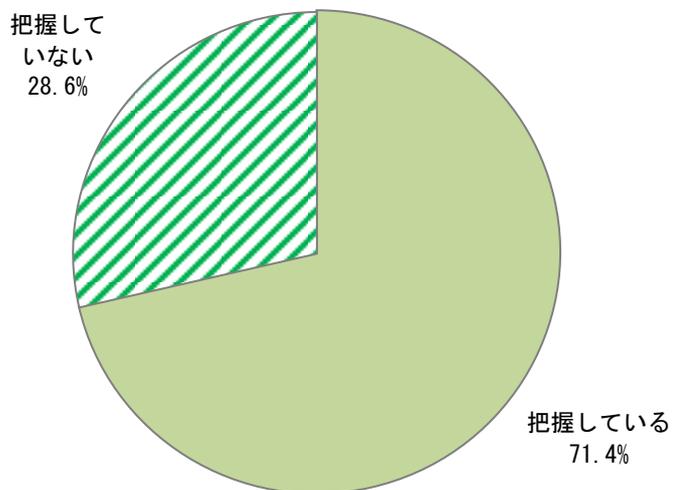


(n = 34)

(12) 外国人児童、生徒の不就学者の把握

QB9-1. 外国人児童、生徒の不就学者の把握はしていますか。(1つ選択)

「把握している」が71.4%となっている。



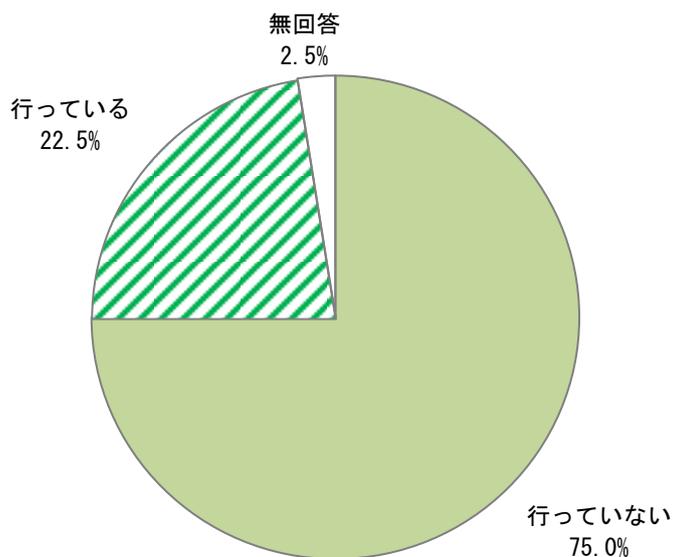
(n = 56)

(13) 把握している不就学者への支援の有無

QB9-2. 把握している場合、何か支援等を行っていますか。

行っている場合は、内容を教えてください。(1つ選択)

「行っていない」が75.0%となっている。

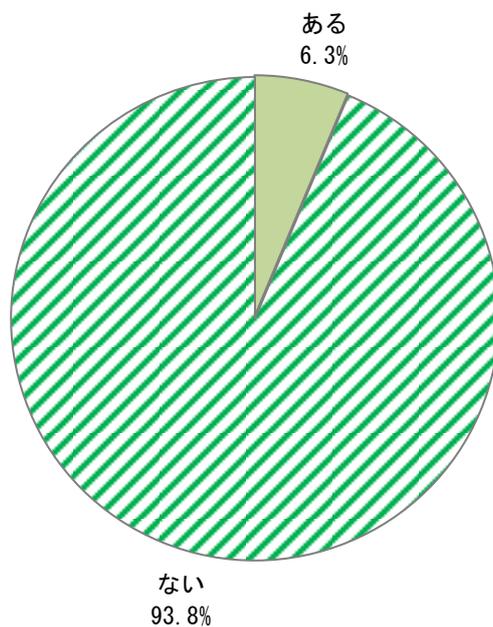


(n = 40)

(14) 不就学者を把握していない場合、今後何か支援等を行う予定の有無

QB9-3. 把握していない場合、今後何か支援等を行う予定がありますか。(1つ選択)

「ない」が93.8%となっている。



(n = 16)

(15) S I Aが提供するサービスの利用経験

QB10. S I Aが提供しているサービスで利用したことがあるものはどれですか。(複数選択可)

「利用したことがない」が58.9%となっている。

一方、利用したことがあるものは「高校進学ガイダンス」が32.1%、「外国人総合相談センター埼玉」が21.4%、「多言語情報サイト」が10.7%となっている。

